教育に関する事務の点検及び評価報告書
（平成２５年度事業分）

平成２６年９月

葛城市教育委員会

目　次

はじめに..... １

１．　教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について..... ２

２．　教育に関する事務の点検及び評価について..... ２

３．　教育委員会点検・評価に関する有識者の概要..... ４

４．　教育委員会の運営及び活動状況..... ５

５．　葛城市総合計画に基づく政策体系について..... ９

６．　教育委員会事業評価シート..... １１

７．　点検及び評価のまとめ..... ６７

はじめに

教育委員会は首長から独立した合議制の組織であり、同委員会が自ら立てた教育行政の基本方針に基づき、教育に係る広範かつ専門的な事務を確実に実施することが求められます。

平成２０年４月より施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正で、各教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに公表することが義務づけられました。

本市教育委員会におきましても、前年度評価の実施後、本年度の評価について改めて評価対象や評価方法に係る議論を重ね、その上で担当課ごとに自己評価に取り組みました。５月には、法に定められた「教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図る」ために設置された「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」により、各事業実務担当者に対するヒアリングを実施し、各事業についてご意見をいただきました。

有識者のご意見を受けて再度担当課ごとに来年度以降の事業方針を決定し、最後に教育委員より評価の総評をいただきました。

この報告書は、以上の成果を「教育に関する事務の点検及び評価報告書」としてまとめたものです。

１．教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について

（１）趣旨

葛城市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。

また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

（２）実施方法

１）葛城市教育委員会の主要施策を対象として点検及び評価を行う。

２）点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向を示すものとし、毎年１回実施する。

３）施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、有識者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。

４）教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」を置く。

（「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。）

５）教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果をとりまとめた報告書を市議会へ提出する。また、報告書は公表するものとする。

２．教育に関する事務の点検及び評価について

（１）評価の対象

評価の対象は前年度の施策・事業（今回は平成２５年度事務執行分）とし、葛城市教育委員会所管の学校教育・社会教育それぞれの分野の施策に関して、評価を実施しました。

（２）今年度の点検及び評価の流れ

まず、主要事業ごとに教育委員会事務局自らがそれぞれの事業のコスト及び成果等について自己評価を行いました（教育委員会事業評価シート（計画）・（実施内容）・（評価）各欄）。その後、事務局評価の客観性を確保するため、作成した評価シート及び各課への有識者ヒアリングをもとに、有識者より様々なご意見をいただきました（教育委員会事業評価シート（有識者意見）欄）。事務局はそれらのご意見を受けて、来年度以降の事業方針を決定しました（教育委員会事業評価シート（方向性）各欄）。

最後に、これらすべてについて教育委員よりご意見をいただきました（点検及び評価のまとめ）。

（３）点検・評価の経緯

①平成２５年度　３月定例教育委員会会議（平成２６年３月１８日開催）

教育に関する事務の点検及び評価の公表・年度計画について協議決定するとともに、事務の点検及び評価を行う様式及び評価事業の決定を行いました。

②教育に関する事務の点検及び評価　有識者ヒアリング

（平成２６年５月３０日～平成２６年６月２日開催）

事業評価について、各事務担当より意見聴取を行いました。

③平成２６年度　６月定例教育委員会会議（平成２６年６月２０日開催）

教育に関する事務の点検及び事業評価について協議しました。

④平成２６年度　７月定例教育委員会会議（平成２６年７月２５日開催）

教育に関する事務の点検及び事業評価について協議しました。

⑤平成２６年度　８月定例教育委員会会議（平成２６年８月２０日開催）

教育に関する事務の点検及び評価報告書を決定しました。

⑥「教育に関する事務の点検及び評価報告書」を葛城市議会議長に提出します。

（平成２６年９月提出予定）

（４）各事業の方向性

平成２５年度主要施策における来年度以降の方向性について、集計結果は以下のとおりです。

事業の方向性	件数
さらに重点化する	４件
現状のまま継続する	１３件
見直しのうえ継続する	９件
事業の縮小を検討する	０件
休止、廃止を検討する	０件
終了・完了	１件

（主要施策ごとの評価は、Ｐ１３～Ｐ６６に掲載）

３．教育委員会点検・評価に関する有識者の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第２７条に基づき、葛城市教育委員会が行った事務の管理及び執行の状況についての自己点検及び評価に対する意見をいただくため、葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者を委嘱しました。

有識者は、次の方に委嘱しました。

岡　島　久　子（元小学校校長、葛城市学校評議委員）

川　中　教　正（當麻寺奥院　副住職）

（主要施策ごとの意見は、Ｐ１３～Ｐ６６に掲載）

４．教育委員会の運営及び活動状況

（１）教育委員会委員について

教育委員会委員は下表のとおりです。（平成２６年　６月２７日　現在）

職　名	氏　名	備　考
委員長	川村　泰男	
委員長職務代理者	和田　治	
委　員	米田　知昭	
委　員	髙木　希容子	
教育長	大西　正親	

（２）教育委員会議及び審議状況について

平成２５年度は合計で１３回の委員会を開催し、審議事項２６件、協議報告事項３３件について審議・協議を行いました。内容は、下表のとおりです。

開催日	審議事項	協議報告事項
4月16日	なし	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・平成２５年度学校教育課程について
5月28日	なし	・平成２５年度特別支援教育学級教育課程について ・学校評議員の委嘱について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について
6月27日	・葛城市教育委員会委員長の選挙について ・葛城市教育委員会委員長職務代理者の指定について	・葛城市教育委員会後援名義の使用について
7月23日	・葛城市社会教育委員の委嘱について	・葛城市公民館運営審議会委員の委嘱について ・葛城市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・平成２５年度教育に関する事務の点検及び評価について

開催日	審議事項	協議報告事項
8月16日	・葛城市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則について ・葛城市社会教育委員の委嘱について ・平成２５年度一般会計補正予算に対する意見聴取について ・平成２５年度学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について	・葛城市公民館運営審議会委員の委嘱について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・平成２５年度教育に関する事務の点検及び評価について
9月22日	なし	・葛城市教育委員会後援名義の使用について
10月15日	なし	・葛城市教育委員会後援名義の使用について
11月26日	・平成２５年度一般会計補正予算に対する意見聴取について ・平成２５年度学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について ・葛城市社会教育委員の委嘱について	・議会選出各種委員の委嘱について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・新学校給食センターにおけるアレルギー食の対応について
12月17日	・葛城市教育委員会委員長職務代理者の指定について	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・葛城市学校給食運営委員会委員の推薦について ・葛城市教育委員会作文の選考について
1月27日	・葛城市教育委員会臨時講師取扱基準の制定について ・葛城市教育委員会一般職の非常勤職員任用要綱の制定について ・葛城市社会教育委員の委嘱について	・葛城市公民館運営審議会委員の委嘱について ・議会選出各種委員の委嘱について ・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・葛城市教育委員会作文の選定について

開催日	審議事項	協議報告事項
2月27日	・平成２５年度一般会計補正予算に対する意見聴取について ・平成２５年度学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について ・平成２６年度一般会計予算に対する意見聴取について ・平成２６年度学校給食特別会計予算に対する意見聴取について ・葛城市立学校における学校運営協議会の設置校の指定について	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・葛城市学校給食運営委員会委員の委嘱について ・学校運営協議会委員の委嘱について ・教育方針について ・市内小・中学校の卒業式・入学式について
3月18日	・葛城市歴史博物館ホール利用規則の一部を改正する規則について ・葛城市文化会館管理運営規則の一部を改正する規則について ・葛城市社会教育委員会議規則の一部を改正する規則について ・葛城市社会教育委員の委嘱基準の一部を改正する基準について ・葛城市生涯学習事業補助金等交付要綱の一部を改正する要綱について ・葛城市文化財保護審議会委員の委嘱について ・葛城市学校医の委嘱について	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・平成２６年度教育に関する事務の点検及び評価　評価対象事業の選出について
3月28日	なし	・人事について

（３）教育委員会議以外の活動について

市内外の各種行事や研修等に参加しました。主な内容は、以下のとおりです。

・各幼稚園、小・中学校入学式（４月９日～１１日）
・奈良県市町村教育委員会連合会会議（５月７日）
・市町村教育委員会教育委員長・教育長会（６月５日）
・葛城市立学校新着任者研修会（８月１６日）
・市民体育祭（９月２２日）
・各幼稚園、小・中学校運動会（９月２１日～１０月５日）
・平成２５年度近畿市町村教育委員研修大会（１０月１８日）
・平成２５年度市町村教育委員会研究協議会（１１月５日～１１月６日）
・各小・中学校訪問（１１月１９日～１１月２６日）
・各幼稚園訪問（１月１６日～１月２７日）
・葛城市駅伝・マラソン大会（１月１２日）
・成人式（１月１３日）
・教職員人事ヒアリング（１月２２日）
・生涯学習まちづくり推進大会（２月１６日）
・各幼稚園、小・中学校卒業式（３月１５日～１９日）

5. 葛城市総合計画に基づく政策体系について

葛城市総合計画については以下のとおりです。

都市像	政策の柱
悠久のロマンと次代の英知が織りなす 爽快都市（シティ）　葛城	**安全・安心** ～安全がまもられ、安心して暮らせるまち～
	愛着・快適 ～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～
	やさしさ・生きがい ～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	参画・活力 ～市民と行政が目標を共有し、ともに取り組むまち～

政策目標	施策目標
犯罪・災害に対する安全性の向上	犯罪から市民をまもり安全性を高める 自然災害や火災等に対する安心感を高める
事故や病気に対する安心感の向上	安心して救急医療サービスが受けられるようにする 交通事故を減らし、安全に対する意識を高める
社会生活の安全性の向上	食に対する安心感を高める 消費生活や個人情報の安全をまもる
良好な自然・地域環境のブランド化	良好な自然と地域環境を保全し、活用する 循環型社会への取組を高めるとともにモラルを向上させる
歴史・文化の保全・継承と交流の促進	歴史遺産をまもり、来訪者を増やす 伝統文化を継承するとともに新たな文化・交流を生み出す
日常生活の利便性・快適性の向上	駅前整備や道路など日常生活の利便性を高める 憩いや散策の場が身近にあり、快適性を高める
地域産業の振興と担い手の育成	農業をはじめ第1次産業の担い手を育てる 特産品や技術を生み出し、地域産業を活性化する
子育てと生きがいの両立	地域で支えあいながら、楽しく子育てができるようにする 子育てと仕事が両立できるようにする
学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる 必要な知識や能力を身につけられるようにする 芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする
いきいきとした生活と社会参加の促進	病気にかからず、介護を必要としないよう、心身の健康を保つ 高齢者や障害者の方が安心して生活できるようにする
市民参画による協働のまちづくりの推進	地域コミュニティ・団体を育てる 市民や事業者の考えや提案をまちづくりに活かす
効果的な行財政運営	経費の削減と独自財源の確保による財政基盤を強化する 職員の能力を高め、アイデアを政策に反映させる 目標に応じた効果的なサービス等の提供を行う

※網掛け部は今回の教育委員会評価対象事業において目標とされている施策です。

６．教育委員会事業評価シート

【平成２５年度主要事業に対する教育委員会評価シート】

事業 No. 1　小・中学校地震補強・大規模改造工事..... １３
事業 No. 2　新庄小学校附属幼稚園園舎改築工事（地震改築）..... １５
事業 No. 3　相談（来室・訪問）事業・研修支援..... １７
事業 No. 4　適応指導教室..... １９
事業 No. 5　スクールカウンセラー（ＳＣ）..... ２１
事業 No. 6　学校給食事業..... ２３
事業 No. 7　葛城歌壇短歌募集事業..... ２５
事業 No. 8　前川佐美雄生誕 110 年記念事業..... ２７
事業 No. 9　読書活動支援・講座..... ２９
事業 No. 10　ブックスタート事業..... ３１
事業 No. 11　成人式式典事業..... ３３
事業 No. 12　生涯学習人材バンク事業..... ３５
事業 No. 13　青少年健全育成事業..... ３７
事業 No. 14　学校・地域パートナーシップ事業..... ３９
事業 No. 15　生涯学習まちづくり推進大会..... ４１
事業 No. 16　子ども・若者育成支援事業..... ４３
事業 No. 17　公園まつり実行委員会業務..... ４５
事業 No. 18　地区館教室・講座事業..... ４７
事業 No. 19　中央公民館　當麻文化会館　教室・講座事業..... ４９
事業 No. 20　文化振興事業..... ５１
事業 No. 21　展示（常設展・特別展等）事業..... ５３
事業 No. 22　歴史講座開催事業..... ５５
事業 No. 23　埋蔵文化財等調査事業..... ５７
事業 No. 24　文化財保存事業..... ５９
事業 No. 25　各種教室開催事業..... ６１
事業 No. 26　各種スポーツ大会等開催事業..... ６３
事業 No. 27　体育施設の運営事業..... ６５

教育委員会事業評価シート

		事業No.	1
事務事業名	小・中学校地震補強・大規模改造工事	担当課名	教育総務課
係　　名	施設係	施 設 名	忍海小学校、白鳳中学校

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	安全・安心～安全がまもられ、安心して暮らせるまち～
	政策目標	犯罪・災害に対する安全性の向上
	施策目標	自然災害や火災等に対する安心感を高める
事業の目的	教育施設の耐震性を高め、児童・生徒の安全を確保する。	
事業の内容	新市建設計画に基づく小・中学校地震補強・大規模改造工事を、平成２５年度は忍海小学校及び白鳳中学校について実施した。 忍海小学校工事はＲＣ造・２階建・延べ面積1,292㎡の校舎について、ＲＣ耐震壁２箇所新設による地震補強工事と、屋上防水改修、外壁改修、内装改修、間仕切改修等の大規模改造工事を施工した。 また、白鳳中学校工事については、ＲＣ造・２階建・延べ面積1,365㎡の屋内運動場について、Ｓ造屋根構面トラス３２箇所、Ｓ造屋根柱脚１２箇所の補強による地震補強工事と、屋根防水改修、外壁改修、内装改修、建具改修等の大規模改造工事を施工した。	
事業対象	小学校の校舎および中学校屋内運動場	

事業年度	□	区分指定無	■	平成　25年度　～　平成　25年度　間

（実施内容）

		区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）		事業費　①	312,535	330,593	516,888
		内一般財源	198,013	244,672	414,120
		内国・県補助金	114,522	110,247	102,768
		内受益者負担	0	0	0
		人件費　②	7,961	4,024	8,048
		総コスト①＋②	320,496	334,617	524,936
実績と成　果		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
	事業実績	耐震改修棟	棟	2	2	2
	事業成果	耐震化率	%	95.7	100.0	100.0

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	新市建設計画に基づき、毎年度２校づつ耐震工事を実施している。 本工事の施工により校舎、屋内運動場の安全性がより向上し、児童が安心して学業に取り組める環境づくりに貢献できた。また、小中学校施設の耐震化率は、今回の事業実施により平成２５年４月時点の９５．７％から平成２５年度末には１００．０％を達成した。このことは葛城市ホームページで「学校等施設の耐震状況」として公表している。							
事業の課題・問題点	耐震診断で特に危険度が高い数値が出た校舎については平成２２年度末にすべての耐震改修が終了しているが、引き続きその他の校舎等についても耐震改修を実施してきた結果、耐震化率１００％を達成することができた。 しかし、今後も各種建築物や設備等について点検管理を徹底し、引き続き安全で安心できる学校環境づくりに努める必要がある。							

（有識者意見）

有識者意見	耐震補強工事が計画的に順調に実施され、平成２５年度末には耐震化率も１００％を達成し、児童生徒・保護者・教員が安心して学べる環境が整備されたことは喜ばしい。 児童・生徒の安全はもちろんの事、大規模災害の避難所となるべき学校施設の補強は必要である。今後も必要に応じて行われるべき事業であり、安全で安心できる教育環境整備に向けて万全を期していただきたい。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	■	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	小・中学校の耐震改修事業については、本年度で耐震化率１００％となり目標を達成することができたが、老朽化等により傷んでいる学校施設が依然として見受けられることから、引き続き徹底した点検管理を継続し、有識者からも指摘があったように、大規模災害時の避難所ということも認識しながら、児童・生徒が安全で安心して過ごせる学校環境の整備に努めたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	2
事務事業名	新庄小学校付属幼稚園園舎改築工事（地震改築）	担当課名	教育総務課
係　　名	施設係	施 設 名	新庄幼稚園

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	安全・安心～安全がまもられ、安心して暮らせるまち～
	政策目標	犯罪・災害に対する安全性の向上
	施策目標	自然災害や火災等に対する安心感を高める
事業の目的	教育施設の耐震性を高め、児童・生徒の安全を確保する。	
事業の内容	新市建設計画に基づく新庄幼稚園不適格改築事業を実施したものである。事業内容は借地及び既存の幼稚園運動場へ、鉄骨造１階建・延べ面積1095.98㎡の新園舎を建築し、遊戯棟を除く既設園舎を解体、借地とあわせて運動場として整備した。	
事業対象	幼稚園園舎（新庄幼稚園）	
事業年度	□ 区分指定無	■ 平成　25年度　～　平成　25年度　間

（実施内容）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①		404,182	
	内一般財源		351,073	
	内国・県補助金		53,109	
	内受益者負担		0	
	人件費　②		4,024	
	総コスト①＋②		408,206	

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	園舎改築工事	円		397,740,000	
		監理委託料	円		6,441,750	
	事業成果	園舎	棟		1	
		保育室	室		5	
		多目的室	室		1	
		職員室	室		1	
		会議室	室		1	

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	本事業は、新市建設計画に基づく新庄幼稚園不適格改築事業を実施したものである。本事業の実施により、園舎の安全性がより向上し、また、長年の懸案事項であった狭い運動場についても、借地を利用することで整備することができ、園児が安心で快適な幼稚園生活を送ることのできる環境づくりに貢献できた。							
事業の課題・問題点	新庄幼稚園については、今回の改築により耐震基準を満たし、安全で安心な幼稚園環境を整備することができたが、市内の他の幼稚園においては、耐震基準を満たしていない施設が存在することから、そうした問題を早期解決できるよう、計画的に順次補強する必要がある。							

（有識者意見）

有識者意見	児童の安全確保は住民生活に安心を与える。結婚をし、新天地を求める夫婦が葛城市を選ぶ理由にもなりえる事業で、広い視点からも拡充が妥当である。 他の幼稚園舎についても耐震化率１００％を達成できるよう計画的に事業を推進していただきたい。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	■	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	市内小中学校については、耐震化率１００％を達成できたが、幼稚園については、耐震基準を満たしていない園舎や経年による老朽化が進んでいる園舎がまだ残った状況である。そうしたことから、今後も引き続き園児の安全・安心を第一に考え、また、幼稚園を取り巻く状況の変化等を鑑みながら、計画的に耐震改修及び大規模改造事業に取り組んでいきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	3
事務事業名	相談（来室・訪問）事業・研修支援	担当課名	学校教育課
係　　名	教育相談室	施 設 名	教育相談室

（計 画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる
事業の目的	子育て・教育についての相談に応じ、その諸問題の改善を図る。	
事業の内容	不登校をはじめ学校生活上の諸問題について保護者や教員（ときには児童・生徒）の相談に応じ、その改善に向けて指導助言を行う。また、園児・児童・生徒の発達や成長についての相談に応じ、保護者へのカウンセリングや教員へのコンサルテーションを行う。	
事業対象	市内の幼稚園・小・中学校の園児・児童・生徒とその保護者、市立園・校の教員	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（実施内容）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	0	0	0
	内一般財源	0	0	0
	内国・県補助金	0	0	
	内受益者負担	0	0	
	人件費②（補助金）	8,232(2,677)	8,630(3,420)	8,761
	総コスト①＋②	5,555	5,210	8,761

	区　　分		単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	電話・来室相談（件数）	回	364(76)	284(61)	300 (70)
		巡回相談	件	303	406	400
	事業成果	問題行動回避・防止	%	41	47	40
		問題状況改善・解決	%	59	53	60

（評　価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A　優れた取組が多く、十分成果が上がっている B　優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C　成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D　成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説　明	就学前・義務教育期から子どもや保護者に寄り添い、悩みや不安を受けとめ適切な示唆を与えることが、不登校や問題行動等を回避するうえで大きな意味をもつ。また、障害受容を早い時期から適切に促し支援することにより、保護者や教員に対するきめ細やかな教育が展開でき、幼児・児童の成長・発達を保障することができる。 保護者や教員のニーズが高く、相談・観察・検査等に相当の時間を要するため、平成２１年度より巡回回数を増加させた効果が表れ、相談件数・回数共に増加しつつある。 平成２５年度も、前年度に引き続き市内在住で軽度発達障害が認められる児童の療育キャンプを実施した。参加は児童15名、保護者13名、指導者４名、支援員７名で、国立曽爾青少年自然の家に１泊２日で出かけた。児童は２日間で自分らしさを発揮して情緒・行動の安定が、保護者は「待つ」姿勢や子どものよさを認める姿勢が培われるとともに、互いの連帯感が生まれた。昨年参加した児童全員が今年も参加したことから、キャンプの成果が評価されていることが分かる。 事業成果の問題行動・状況を回避・防止・改善・解決できた割合は、一定の成果であると考える。							
事業の課題・問題点	現在の教育相談室は適応指導教室と同じ建物内にあり、教室に通う児童・生徒を気にしながら電話相談や来室相談に応じている。プライバシー保護の観点から、施設の改修を図る必要がある。							

（有識者意見）

有　識　者 意　　見	幼稚園から小学校、中学校と切れ目なく取り組まれている子どもたち一人一人に応じた教育は、保護者にとっても力強い支援になっている。発達障害は子ども一人一人の成長に合わせた対応が求められ、市の取り組みはそれに適っている。 保護者への相談対応も含め、件数に合わせて人員配置を考えなければならない。心理学を学ぶ学生ボランティアなどを受け入れ、人材育成の場にもなればなお良いと考える。 また、安心して業務の推進が出来るよう、施設改修をお願いしたい。

（方向性）

事業の方向性	■	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	発達障害に対する相談・支援のニーズは年を追って高まりつつあり、そのことを踏まえて相談体制のさらなる充実を図りたい。 施設改修については、他の様々な相談、指導業務全体を視野に入れて総合的に考えたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	4
事務事業名	適応指導教室	担当課名	学校教育課
係　　名	教育相談室	施 設 名	教育相談室

（計 画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	必要な知識や能力を身につけられるようにする
事業の目的	不登校児童・生徒１人１人に即した支援を行い、学校復帰を目指すとともに、学校不適応が社会不適応につながらないようにする。	
事業の内容	不登校児童・生徒を対象に個別カウンセリングや個別教科学習、集団活動、スポーツ活動等を行い、学力の保障を図るとともに、児童・生徒の自立心や社会性、協調性を育て、のびのびとした発達・成長を促す。	
事業対象	市内の小・中学生	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　～　平成　間

（実施内容）

	区　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	144	132	190
	内一般財源	0	0	0
	内国・県補助金	0	0	0
	内受益者負担	0	0	0
	人件費　②	5,681	5,527	5,997
	総コスト①＋②	5,825	5,659	6,187

		区　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	入室人数	人	12(5)	17(5)	10(6)
		※入室人数については、在籍者数（その年度の入室者数）				
		学校復帰数	人	3	4	3
	事業成果	高校等進学率	%	100	85	100
		出席率	%	中57	45	60

（評　価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A　優れた取組が多く、十分成果が上がっている B　優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C　成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D　成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説　明	平成２５年度通室者数は、新庄中学校区（中学生９名、小学生なし）、白鳳中学校区（中学生７名、小学生１名）だった。平成２５年度は新庄中学校区・白鳳中学校区より５名の入室があり、１名の小学生が入室した。ただ、教室生のうち中学３年生が１３名という実態があり、進路指導と受験に向けての学習に力が注がれた。 出席率は４５％程度であるが、学校復帰をした場合はこの出席率が低下するわけで、出席率の読み方そのものを慎重に行う必要がある。適応指導教室に通いながら学校復帰する生徒や引きこもり傾向の児童・生徒がいたことにより、出席率が低迷した。 昨年度に引き続き、社会見学や体験学習を実施した（国立少年自然の家１泊２日の校外学習。花や野菜の栽培活動）。見学地での新鮮な驚きや感動、集団行動の大切さの自覚等々貴重な学習の機会であると認められる。 平成２３年度より、２ヶ月ごとに各小・中学校より不登校傾向が認められる児童・生徒の記録を提出願い、それを通して各学校に不登校防止の自覚を促し、早期発見・早期対応を図るようにしている。調査によって教育相談室・適応指導教室や学校の取組を客観的に分析検討する機会としている。学校が不登校をできる限り防止すること、自らの取組の適否を客観的に検討する機会となると同時に、教育相談室・適応指導教室との連携が深まっている。							
事業の課題・問題点	中学生の不登校は、小学校時代にその萌芽が認められる場合が少なくない。前述した２ヶ月ごとの不登校傾向児童生徒の調査の分析をはじめとして、適応指導教室として何ができるかを今後検討し、気になる事例に関して学校との連絡調整を図っているが、今後さらなる取組の充実を図る必要がある。 その取組の端緒として、平成２５年度から市校長会の組織の一つである教育相談部会の活性化を図り、各校の実践交流や不登校の要因の一つである発達障害の理解を促す取組を行った。平成２６年度は、不登校の未然防止をテーマに取り組む予定である。							

（有識者意見）

有　識　者 意　　見	不登校の子ども達が社会に適応できなければ将来の貧困へ直結してしまう。しかし学校にそのすべてのケアを求めることは現実として不可能であるため、本事業の取り組みは必然である。 不登校児童生徒は周囲とのコミュニケーションが苦手な子も多く、通室者にとっては相談室が学習の場であると共に心の居場所ともなっている。高校進学を果たした生徒も多く、地道な取組みが大きな成果に繋がっていると思う。今後も子どもたちが安心して学びながら学校復帰を目指して頑張っていけるよう、小学校・中学校との連携を密にして取り組みの充実を図っていただきたい。 可能ならば社会人になるまでの追跡調査を実施していただきたい。

（方向性）

事業の方向性	■	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	不登校児童・生徒の学校復帰を目指す取組は、小・中学校との連携を一層図りながら、今後も取組を充実させたい。 中学校卒業以降の学校・社会への適応は本市サポートルームに委ねることになるが、同ルームとの連携は既に始まっており、今後もそれを継続する中で、適応指導教室卒業生の状況を見守りたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	5
事務事業名	スクールカウンセラー（ＳＣ）	担当課名	学校教育課
係　　名	教育相談室	施 設 名	新庄中学校　白鳳中学校

（計 画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～		
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり		
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる		
事業の目的	学校不適応をはじめ学校生活上の諸問題で悩む児童・生徒に対するカウンセリングを行うことで、諸問題の改善を図る。			
事業の内容	不登校や学校生活の諸問題で悩む児童・生徒・保護者の求めに応じてカウンセリングを行う。また、学級担任や相談担当教員へのコンサルテーション及び職員研修の指導助言を行う。 適応指導教室に入室する児童・生徒のカウンセリングを行い、進路を決定する。			
事業対象	市内小・中学校児童・生徒とその保護者、教員			
事業年度	■	区分指定無	□	平成　　～　平成　　間

（実施内容）

事業コスト（単位：千円）	区　　分		平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
	事業費　①		2,360	2,024	2,065
	内一般財源		2,360	2,024	2,065
	内国・県補助金		0	0	0
	内受益者負担		0	0	0
	人件費　②		0	0	0
	総コスト①＋②		2,360	2,024	2,065
実績と成　果	区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
事業実績	相談回数	回	271	419	400
事業成果	適応指導教室入室者数	人	5	5	5
	情緒や家庭環境の安定	人	17	39	40

（評　価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	かつて課題となった多様かつ増加傾向にある相談要請への対応については、スクールカウンセラー（以下、ＳＣ）に相談の一切を委ねるのではなく、ＳＣの初期相談の後は教育相談室長が継続相談を引き受けて実施した。また、より専門的な関係機関（医療・サポートルーム等）につなぎ、課題の改善・解決に努めている。 平成２５年度の相談回数４１９回のうち、教職員のコンサルテーションが１２７回あり、不登校傾向をもつ児童・生徒に対する現場の指導に生かされている。							
事業の課題・問題点	市が単費で雇用する白鳳中学校のＳＣは、適応指導教室入室に係る相談や教育相談室所属心理士へのアドバイスの時間も含むため、年間最大５０回（350時間）の予算措置をしている。それに対して、県教育委員会から配置される新庄中学校のＳＣの持ち時間が削減され、年間最大１７回（１０７時間）となり、両校で大きな差異を生じている。 ただ、白鳳中学校のＳＣが担当した相談者の内訳を見たとき、新庄地区の小・中学生に係る相談の割合が低くないことが明らかとなった。そこで平成２４年度より相談者の要望や利便性を踏まえ白鳳中学校のＳＣに新庄中学校でもＳＣ（年間１００時間程度）を担当していただくことにした。その結果、新庄中学校地区で月１回のカウンセリング日で相談１０４回となり全体の２５％を占めている。この数字は、新庄中学校に県から派遣されているスクールカウンセラーの相談回数が約１００（月２回のカウンセリング日）に比較して劣るものでなく、新庄中学校区での活動成果が出ている。							

（有識者意見）

有識者意見	市単独で雇用しているＳＣの活用を工夫することで相談業務が充実し、適応指導教室との連携にも活かされ、成果をあげている。今後も市としての雇用を継続していただきたい。 生徒や保護者のみならず、近年は教職員への必要性が増していると聞く。教職員へのコンサルテーションの回数も多く、教育現場での指導に生かされていることに感謝する。 社会問題の写し鏡である学校を円滑にするため、ＳＣの拡充も考えなければならない。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	スクールカウンセラー業務に対する期待は大きく一定の成果をあげているが、それ以外の各種相談に対するニーズの緊急性・重要性を踏まえつつ、全体的なバランスを考慮して判断したい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	6
事務事業名	学校給食事業	担当課名	学校給食センター
係　　名		施 設 名	学校給食センター

（ 計　画 ）

総合計画上の位置付け	政策の柱	安全・安心～安全がまもられ、安心して暮らせるまち～
	政策目標	社会生活の安全性の向上
	施策目標	食に対する安心感を高める
事業の目的	園児・児童・生徒の心身の健全な発達のため、安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食に関する正しい理解と判断力を養い学校での食育に資することを目的とする。	
事業の内容	葛城市の給食事業は、２箇所の給食センターから幼稚園５園・小学校５校・中学校２校に給食を実施している。給食数は１日４千食である。安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供し、合理化・効率化を図るため両センターが連携して献立の作成や食材の共同購入を行い、設備管理等における契約業務も統一して行っている。 食育の取り組みでは、引き続き地産地消を推進して地元野菜への理解を深め、毎月の献立票に「給食だより」の欄を設けて旬の野菜等の説明を入れたり、給食時の指導材料として「学級のみなさんへ」というプリントを各学級に配布したりしている。	
事業対象	幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（ 実施内容 ）

事業コスト（単位：千円）	区　　分		平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
	事業費　①		204,743	210,058	226,485
	内一般財源		40,285	42,684	47,933
	内国・県補助金				
	内受益者負担		164,458	167,374	178,552
	人件費　②		88,210	88,020	88,020
	総コスト①＋②		292,953	298,078	314,505
実績と成　果	区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
事業実績	給食材料費	千円	177,440	180,445	188,042
	内市費	千円	12,982	13,071	9,490
	内保護者負担金	千円	164,458	167,374	178,552
事業成果	給食人数	人	3,995	4,073	4,176
	給食数	食	692,811	697,127	770,086

（ 評　価 ）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説　明	食材の値上がりに対応するため、平成２２年４月よりの給食費の値上げとともに市からの助成を受け、メニューの工夫・食材のやりくりに努力を重ねて安全な給食の提供ができた。 地場産物としては、米はすべて奈良県産米であり、ねぎ・鶏卵は市内産でまかなっている。季節の食材としては柿・いちご・酒かすも使用している。地場産物への理解を深める等食育の一環として今後も積極的に取入れたい。 平成２６年４月からは消費税増税に伴い、消費税分のみ給食費に転嫁している。							
事業の課題・問題点	・アレルギー対応 ・給食業務の外部委託化の推進 ・現在の両給食センターを統合した新給食センターの建築 ・地産地消に関する取組み							

（ 有識者意見 ）

有　識　者意　　見	平成２７年度には新学校給食センターでの業務がスタートするようだが、アレルギー対応、食の安全は子どもたちの健全な発達を支えていく大事な課題である。業務効率化に期待する一方、推進に当たっては、安全・安心で栄養バランスのとれた給食を第一に進めていただきたい。 食育の観点から見て、もっと生産者の顔が見える取り組みも今後求められるかもしれない。

（ 方向性 ）

事業の方向性	■	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	現在稼動している両学校給食センターともに稼動から相当の年数が経過し、施設や設備の老朽化が進んで維持管理が難しく、施設の更新時期を迎えている。また、学校給食を取り巻く環境が変化する中、学校給食衛生管理基準への対応、食育への取り組み等、様々な課題も抱えている。 これらの課題を解決するため、現在稼動中の二つの学校給食センターを統合した新たな施設の建設を進めている。 新学校給食センターでは現在抱えている課題・問題点に取り組んでいきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	7
事務事業名	葛城歌壇短歌募集事業	担当課名	図書館
係　　名		施 設 名	葛城市立図書館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進
	施策目標	伝統文化を継承するとともに新たな文化・交流を生み出す
事業の目的	柿本人麻呂及び前川佐美雄二人の歌人を記念して、葛城市生涯学習の拠点づくりと短歌の故郷「葛城」を目指す。	
事業の内容	平成６年度より、葛城市ゆかりの柿本人麻呂、前川佐美雄の二人の歌人を顕彰し、短歌の故郷「葛城」を目指して短歌を募集している。 短歌の故郷「葛城」としての、短歌に親しむ裾野を広げるために短歌講座を開催した。	
事業対象	小学生以上	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　～　平成　間

（実施内容）

	区　分	平成24年度決算	平成25年度決算	平成26年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	912	879	1,219
	内一般財源	729	698	1,039
	内国・県補助金	0	0	0
	内受益者負担	183	181	180
	人件費　②	2,833	2,138	2,138
	総コスト①＋②	3,745	3,017	3,357

		区　分	単位	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度（目標）
実績と成　果	事業実績	選者	千円	280	280	280
		印刷、送料他	千円	612	489	759
		短歌講座	千円	20	20	20
	事業成果	応募者	人	1,345	1,329	1,300
		応募作品	首	2,286	2,186	2,100
		短歌大会参加者	人	80	84	85
		短歌講座	人	47	26	30

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	短歌大会も17回を数え、本市の定例歌会として、それなりに浸透してきた感があるが、マンネリに陥らぬよう、また新たに短歌作りに興味を持つ人が増えて気軽に参加できるよう、短歌講座を催した。参加者が詠んだ短歌を講師に添削・解説していただくことで、初心者・上級者を問わず、その力を高めることができ、参加者に喜ばれた。							
事業の課題・問題点	短歌大会も17回目を迎え、毎回参加を楽しみにしている方もおられ定着してきたが、新規応募者の更なる開拓と歌壇の周知が課題である。市民が短歌に親近感をもち、気軽な気持ちで日常的に短歌を鑑賞したり、作ったりできる環境を整え、生涯にわたる趣味や学習の対象となるよう、本市が「短歌のふるさと」であることの周知に努めたい。							

評価を受けての改善点（過去３年間）	入賞者への記念品の予算もいただくことができたので、応募者を増やすことに力を入れた。配布先施設等を拡大し、歌壇の存在が多くの人の目に触れるように工夫した。また、図書館ホームページからも応募用紙をダウンロードできるようにした。さらに、海外からの応募者についても、応募の際、メールアドレスなどをわかりやすく明記できるよう工夫し、海外からの募集拡大も図った。

（有識者意見）

有識者意見	短歌の郷というコンセプトをぶれずに進めながら、それを市民に認知していただき、広めていくことは大切なことである。 小学生・中学生の宿題に取り入れているのは良い取り組みである。小学生・中学生からの応募が多いのは、学校との連携を図った葛城市独自の取り組みの結果だと思う。短歌作りを通じて身の回りの自然や出来事に目を向けていくことが、子どもたちの情緒や感性を育て、郷土の良さに気づくきっかけにもなるのではないか。 マンネリ化を防ぐために予算の中で新しい取り組み、工夫を重ねて応募を増やしていただきたい。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	マンネリ化を防ぐための取組をとご評価いただいたが、実際のところ短歌大会への応募はやや減少傾向にある。小中学生の応募は安定していることから、今後20回を目途に、葛城歌壇は、葛城子ども歌壇へと発展的解消させることも視野に入れ、準備に取り組みたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	8
事務事業名	前川佐美雄生誕110年記念事業	担当課名	図書館
係　　名		施 設 名	葛城市立図書館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進
	施策目標	伝統文化を継承するとともに新たな文化・交流を生み出す
事業の目的	葛城出身（旧新庄町名誉町民）である昭和歌人・前川佐美雄の生誕１１０年を記念して、顕彰事業を行う。この機会に、「短歌のふるさと葛城」を市民に広く周知し、郷土の歌人の偉大さを再認識すると同時に、本市の貴重な歴史・文化・知的財産を再発見し、市民が短歌文学に親しむ環境を醸成し、今後の地域振興に貢献することが目的である。	
事業の内容	葛城出身（旧新庄町名誉町民）である昭和歌人・前川佐美雄の生誕１１０年記念において、「短歌のふるさと葛城」を市民に広く周知し、短歌に親しみ、郷土の歌人の偉大さを再認識してもらうと同時に、本市の貴重な歴史・文化・知的財産を再発見し、今後の顕彰のありかたを確立するため、２月９日に歴史博物館あかねホールにおいて、前川佐美雄のDVDの披露及び穂村弘を講師に迎え、記念事業を実施した。	
事業対象	小学生以上	
事業年度	□ 区分指定無	■ 平成 25年度　～　平成 25年度　間

（実施内容）

事業コスト（単位：千円）	区　　分		平成　年度決算	平成25年度決算	平成　年度予算
	事業費　①			3,184	
	内一般財源			1,062	
	内国・県補助金			2,122	
	内受益者負担			0	
	人件費　②			894	
	総コスト①＋②			4,078	
実績と成　果	区　　分	単位	平成　年度実績	平成25年度実績	平成　年度(目標)
事業実績	ＤＶＤ作成	千円		2,100	
	印刷、折込手数料他	千円		386	
	パネル作成	千円		168	
	講演会	千円		500	
	謝金	千円		30	
事業成果	講演会	人		206	

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	ふるさとの短歌をたくさん詠んだ葛城出身の昭和の歌人を、故人を直接交流のあった方々とともに顕彰するには、「生誕110年」は絶好の最後の機会であることを考慮し、歌人の作品と生涯を紹介するものをまとめておくのは、郷土の図書館としての義務である。							
事業の課題・問題点	昭和の歌人として短歌文学史上功績のあった前川佐美雄であるが、市内においての知名度はそれほど高くない。短歌という分野がもともと地味で、短歌人口そのものが多くないのだが、出身地の責務として、歌人を誇りに思い、短歌に親しみを持つ市民が少しでも増えるよう、若い世代にむけての情報発信が必要である。また、この機会に、継続して何らかの形で歌人を顕彰し、短歌文学への敷居を低くしていくこと、ひいては図書館の間口を広げることが課題である。							

（有識者意見）

有識者意見	生誕１１０年を記念して計画的に事業を実施されたことを評価する。今後もぜひ歌人顕彰の取組を何らかの形で実現し、市民が短歌に親しむきっかけになることを期待する。可能なら具体的な案も示していただきたい。 このような単年度の事業は打ち上げ花火になりがちである。今後どのように活かすかを考えていかなければならない。作成したＤＶＤやパネルの有効利用を期待する。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	■	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	単年度事業であるが、引き続き、郷土出身の歌人を顕彰していくため、7月15日の命日を「風蘭忌」と名付け、さらなる浸透を図りたい。規模の大小は出てくるだろうが、今後、「風蘭忌」においては、前川佐美雄と、短歌文学や風蘭という植物に関連するイベントを行っていきたい。短歌と写真、絵画、書画などとのコラボといった展開も工夫したい。その際、作成したビデオ上映やパネル展示などを有効活用することとする。また、ダイジェスト版は、葛城市のホームページから、誰もが見ることができるよう（現行の観光ビデオのように）調整したい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	9
事務事業名	読書活動支援・講座	担当課名	図書館
係　　名		施 設 名	葛城市立図書館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	必要な知識や能力を身につけられるようにする
事業の目的	市民に図書館を身近に感じていただき、利用を促進する。 また、読書活動の推進や知識を身につけるための支援を行う。	
事業の内容	図書館を身近に感じていただくために、読書活動の支援として小中学校・幼稚園等へのおはなし配達、図書館主催による短歌講座や文学講座等5回実施した。	
事業対象	市民（大人・子ども）、おはなしボランティア、学校・幼稚園・保育所の先生等	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（実施内容）

	区　　分	平成24年度決算	平成25年度決算	平成26年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	40	40	40
	内一般財源	40	40	40
	内国・県補助金	0	0	0
	内受益者負担	0	0	0
	人件費　②	1,242	1,051	1,051
	総コスト①＋②	1,282	1,091	1,091

	区　　分		単位	平成　年度実績	平成25年度実績	平成26年度（目標）
実績と成　果	事業実績	子どもと楽しむ本の世界	千円	40	20	20
		各種講座	千円	—	20	20
		人形劇	千円	—	—	—
	事業成果	子どもと楽しむ本の世界	人	99	108	110
		各種講座	人	639	687	700
		人形劇	人	156	—	—

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	ボランティア養成講座の計画においては、ボランティアと図書館が学びたいこと、学んでほしいこと等希望や意見を出し合って内容を練り上げた。その結果、双方が満足でき、協力・連携体制も強化された。またボランティアの人数も増加して活気づいている。質の高い講座を開講し、参加者に満足していただけた。							
事業の課題・問題点	ボランティアと図書館の関係は良好であり、協力・協働も深化している。新たにボランティアを始める方もおられる。ボランティアを志す人を育成し、円滑に知識や技術を習得できるように努めなければならない。 また、大人向けの講座を魅力的なものにするため、平成25年度に実施の前川佐美雄記念講演会を契機にしていきたい。こうしたことをきっかけに、図書館の敷居を低く間口を大きく、図書館への来館者が少しでも増え、地域の居場所としても快適な図書館空間を創り出していきたい。							

（有識者意見）

有識者意見	園児児童生徒へのお話配達や講座の開催など、内容を精査した幅広い年齢層への取り組みの結果、図書館の利用者が増え、生涯学習の一翼を担ってる。 ボランティアの人数が増加し、活気付いて成果をあげているのは、ボランティア育成のための研修にも力を注いでいる結果であると思う。子どもと直に接していただくボランティアの方々には、読み聞かせの技術だけでなく、子どもと接する技術等様々なことが求められる。負担の面も考慮しつつ、ボランティアの質の向上とその先にある子ども達を含む市民に届く事業の展開を期待する。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	両館定例のおはなし会や、学校を訪問して行うおはなし配達などが一層充実するよう、職員も技術向上に努めたい。ボランティアの方々も楽しみながら活動できる状況をつくるため、講座は、本当に必要なことに焦点を合わせ、回数を減らして内容を精査して要望に沿ったものを行っていく。参加する方に負担のないよう配慮しながら進めていきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	10
事務事業名	ブックスタート事業	担当課名	図書館
係　　名		施 設 名	葛城市立図書館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	子育てと生きがいの両立
	施策目標	地域で支えあいながら、楽しく子育てができるようにする
事業の目的	絵本を介して赤ちゃんと保護者が触れ合う機会をつくれるよう、行政と地域が連携して子育てを支援する。	
事業の内容	毎月4ヵ月児健診時に、健康増進課、おはなしボランティア等と協力し、絵本を読み聞かせ、乳幼児と保護者が絵本を介して親子のふれあうきっかけを作り、行政と地域が共働して子育て支援を行っている。	
事業対象	4ヵ月児健診対象の赤ちゃんと保護者	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（実施内容）

	区　　分	平成24年度決算	平成25年度決算	平成26年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	257	272	326
	内一般財源	257	272	326
	内国・県補助金	0	0	0
	内受益者負担	0	0	0
	人件費　②	1,156	883	883
	総コスト①＋②	1,413	1,155	1,209

		区　　分	単位	平成24年度実績	平成25年度実績	平成26年度（目標）
実績と成　果	事業実績	ブックスタート	千円	257	272	272
		親子で楽しむ講座	千円	20	23	25
	事業成果	ブックスタート	組	289	330	330
		絵本講座	人	17	23	30

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	ブックスタートは、赤ちゃんと保護者が心ふれあうひとときを持つきっかけになり、親子の愛情を育む上で効果を上げている。この事業も継続してきたことで、ブックスタートの事業の主旨はよく理解され、浸透してきた感がある。本を手渡しして読み聞かせをし、主旨を説明した方には喜ばれていることが実感できる事業である。 おすすめ絵本の紹介や子育て支援センターの催しの案内も行っており、図書館利用や催しへの参加者が増加している。							
事業の課題・問題点	ブックスタートにはボランティアの協力が必須である。ブックスタートを受けられる方も、ボランティアでかかわる方も、双方が楽しく有意義なひとときを共有できるよう、調整するのも図書館の役割である。子育て支援の取り組みを強化するためには、庁舎内の連携、市民協働の理想的なありかたをめざし、様々な立場の人が共通認識を持つことが重要である。乳児の月例や保護者の状況なども考慮し、より良い子育て支援をしていきたい。							

（有識者意見）

有識者意見	４ヵ月児健診の時を利用することで、親子でゆったりと過ごす時間を持ち、子育ての相談の場にもなっていることが感じられる事業である。子育てをする保護者は様々な不安と共にある。絵本を用いたコミュニケーションの仕方を伝えることは有益であり、必ず参加する健診時に実施するという手法も利に適っている。特に第一子の保護者にとっては大切な事業であり、他機関との連携することで子育て支援にも繋がっている。 平成２６年度より実施されている２ヵ月児健診での取り組みも納得できるが、人員に無理がないか心配する。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	４ヵ月児健診においては、ボランティアの方々のご協力を得て、赤ちゃんに本を読んであげたり、手遊びをするなど、市民と地域、そして庁内が連携して良い取組を行っていきたい。試行的な要素が強かったが、２ヵ月児の保護者への啓発は、４ヵ月への取組に向けて効果が上がっている。特に、保護者に向けた絵本の読み聞かせは手ごたえがあるが、カウンター業務の合間を縫って、職員が交替で出向いている状態である。大切な事業なので、来年度は、人員配置の増加を要望したい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	11
事務事業名	成人式式典事業	担当課名	生涯学習課
係　　名	生涯学習係	施 設 名	

（ 計　画 ）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～		
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり		
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる		
事業の目的	新成人が大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますため、国民の祝日に関する法律に基づく成人の日に合わせて本事業を行う。大人としての責任を感じ、義務を果たすことの必要性を実感するための機会としたい。			
事業の内容	新成人による新成人のための成人式にするために、新成人からスタッフを募集し、企画・運営等について協議を重ね、会場舞台設営や飾り付け等の諸準備も行うなどして、本事業を実施する。			
事業対象	新成人及び新成人関係者			
事業年度	■	区分指定無	□	平成　　～　平成　　間

（ 実施内容 ）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	850	998	1,000
	内一般財源	850	998	1,000
	内国・県補助金			
	内受益者負担			
	人件費　②	3,839	4,624	4,624
	総コスト①＋②	4,689	5,622	5,624

		区　　分	単位	平成２4年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	決算額	千円	850	998	1,000
		スタッフ会議	回	22	12	20
	事業成果	参加者数	人	274	270	300
		対象者人数	人	351	351	360

（ 評　価 ）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	新成人からスタッフを募集し、新成人が生み出すアイデアを多く盛り込み成人式を企画し、新成人が最も望むであろう形で成人式を実施する事が出来、参加者からの反応は概ね良いものとなっている。 また、これまでの成人式は結果として、記念品の作成に多くの予算を費やしていたことから平成２５年度は記念品を廃止し、参加したことを喜べる「記憶に残る」成人式を目指し、ダンスクルーを登場させ、舞台上で希望者と一緒に踊るというコーナーを設け、最後は恩師とのコラボレーションも実施。会場には、割れんばかりの拍手が起き、これまでに無い盛り上がりを見せ成功裏に終えたと考えている。 このように従来とは違ったスタイルでの成人式を実施することが、他市町村と比較して高めの参加率につながっていると考えられる。							
事業の課題・問題点	新成人スタッフが中心となって事業を推進するにあたり、スタッフが毎年更新される事と、スタッフの能力や積極性に左右され、安定した成果を生むことが難しい。 行政側のこれまでの経験や実行委員会のノウハウを上手くスタッフ側へ伝達し、それぞれの年度の新成人の色を出してやれるよう指導・助言を行っているが、今後のそして永遠の課題である。							

（ 有識者意見 ）

有識者意見	全国的に見れば問題に挙がることも多い成人式事業であるが、本市の取り組みは秀逸ではないだろうか。特に新成人がスタッフとなり、自ら考え、企画していくというストーリーが良い。人生の節目となる成人式を自分たちの企画で作り上げていくことに大きな意義がある。７割を超える参加率も素晴らしく、年々良いものに進化していることも感じられ、評価に値する事業である。 ２０歳になると既に地元を離れて暮す方も多く、準備段階から担当課としての苦労も多いと思われるが、手作りの成人式として位置付き、築き上げられていることは大きな成果である。 特に平成２５年度は従来とは違ったスタイルで企画し、成功裏に終わったようで、関係者のご苦労が実を結んだ結果であると感じる。今後も成人式が心に残るイベントとなることを期待する。

（ 方向性 ）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	毎年、新成人が企画・運営のスタッフとなるため、安定した成果を見ることは難しいが、これまで積み上げてきたノウハウなど、行政として可能な限り情報提供や助言を行い、新成人にとって一生思い出に残るような成人式としたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	12
事務事業名	生涯学習人材バンク事業	担当課名	生涯学習課
係　　名	生涯学習係	施 設 名	

（ 計　画 ）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	必要な知識や能力を身につけられるようにする
事業の目的	豊かな知識・経験・技能等をお持ちの市民にボランティア活動として学校教育や社会教育のお手伝いをいただき、本市教育のより一層の振興を図ろうとするものである。 健康で生き甲斐のある明るく住みよいまちづくりに役立つことを目的に、人材バンク募集・登録及び派遣により生涯学習の推進を図る。	
事業の内容	人材バンク募集及び登録に基づき、自主的に活動している市内の団体やグループ、サークル等の学習活動の支援のための斡旋や派遣を行う。	
事業対象	市内自主活動グループ等	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（ 実施内容 ）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	22	26	30
	内一般財源	22	26	30
	内国・県補助金			
	内受益者負担			
	人件費　②			
	総コスト①＋②	22	26	30

	区　　分		単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	決算額	千円	22	26	30
	事業成果	登録者数	人	65	60	70
		派遣講師数	人	41	43	50
		受講者数	人	49	73	75

（ 評　価 ）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）						
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）						
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	人材バンクの指導分野は新しいジャンルのものが増えてきているが、平成２５年度の登録者数は高齢化もあり減少した。 派遣依頼数は極僅かであり厳しい状況が続いている。他課が実施する事業への講師派遣の実績があるが、今後も積極的に新規開拓を行っていかなければならない。						
事業の課題・問題点	市広報誌での紹介などＰＲを行っているが、派遣依頼数が少ないため、他の事業へ積極的に講師を紹介し人材バンクの利用を促したい。 また、講師の紹介に際して、現在のプロフィールでは大まかな指導分野のみ記載されているが、詳細な指導方法の情報を追加するなど検討していきたい。 また、個人からの派遣依頼の問い合わせがあるが、現時点では団体からの依頼のみ受託しているのが今後の検討課題である。						

（ 有識者意見 ）

有識者意見	多くの方の登録があり、市民のニーズに対応できる体制が整ってきているように思う。 ただ、派遣依頼に偏りがあり、妥当性、有効性、達成度の面で自己評価に疑問を感じる。市民への広報や人材活用に多くの課題があると思われる。

（ 方向性 ）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	市広報誌でのＰＲだけでなく、他の部署とも連携をとりながら、行政内部の他の事業や学校、各種団体など機会ある度にＰＲをして行きたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	13
事務事業名	青少年健全育成事業	担当課名	生涯学習課
係　　名	子ども・若者育成支援係	施 設 名	

（ 計　画 ）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～		
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり		
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる		
事業の目的	次代を担う青少年の健全な育成を地域ぐるみで図る。			
事業の内容	市青少年健全育成協議会を組織し、所属団体の校長会・生徒指導主任者会・ＰＴＡ協議会・県青少年指導員・高田警察署少年補導員の５団体間の連絡調整を行い、下記の活動を推進する。 ①広報・啓発活動の推進（市広報誌への掲載・駅等での啓発活動） ②非行防止と環境浄化運動の推進（遊戯施設等での巡視活動）			
事業対象	市内青少年			
事業年度	■	区分指定無	□	平成　　～　平成　　間

（ 実施内容 ）

事業コスト（単位：千円）	区　　分		平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
	事業費　①		400	400	400
	内一般財源		400	400	400
	内国・県補助金				
	内受益者負担				
	人件費　②		1,906	1,902	1,902
	総コスト①＋②		2,306	2,302	2,302
実績と成　果	区　　分		単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度（目標）
	事業実績	会議	回	4	4	4
		研修会	回	0	0	0
		巡視活動	回	2	2	2
		街頭啓発	回	2	2	2
	事業成果	会議	人	72	73	80
		研修会	人	0	0	0
		巡視活動	人	46	42	50
		街頭啓発	人	70	68	80

（ 評　価 ）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）						
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）						
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説　明	各種イベントでの啓発活動やのぼり旗の設置、巡回指導など当初の活動計画どおりに実施できたが、協議会として所属団体間の連絡調整だけでなく、メンバー自身各々の仕事を持ちながらの活動でもあり、限られた時間で互いに協力して活動できるような具体的な取り組みを進めることが必要であると考える。 巡視活動・啓発活動は各所属団体でも実施しているが、実績と成果に掲載した数は市青少年健全育成協議会が全体で取り組んだ数を示す。						
事業の課題・問題点	７月の「青少年の非行・被害防止強調月間」及び１１月の「子ども・若者育成支援強調月間」についての啓発活動を行っているが、市民が意識を持って自分たちの手で地域の青少年を育成するという行動に結びつくところまでには達していない。 また、生涯学習課が業務の一部として担当する中で青少年の問題は大きな課題であり、子ども・若者育成支援事業も含めた中で、これらの課題に専門的に対応する機関（他市にある青少年センター）の設置を検討する必要があると考える。						

（ 有識者意見 ）

有　識　者 意　　見	青少年健全育成のためには隣接する他市町村との連携も重要ではないか。 また、青少年に関する諸問題・課題を総括し対応できる青少年センターの設置を検討していただきたい。 青少年の健全育成は地域の大人全員で進め続けることであり、本事業のような情報交換や協力は必要である。ただし、近年青少年を取り巻く環境はめまぐるしく変化しており、スマホ世代の不可視化する問題への取り組みにも期待したい。

（ 方向性 ）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	地域住民の意識の向上に向け、多様化する青少年を取り巻く環境の実態把握や先進事例の研究などにも他市町村との情報交換や協力は、重要である考えている。協議会の一部会員ではすでに、近隣市町村での合同の取り組みも行われている。そのような輪を広げるような連携を模索して行きたい。 青少年センターの設置についても、引き続き検討して行きたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	14
事務事業名	学校・地域パートナーシップ事業	担当課名	生涯学習課
係　　名	生涯学習係	施 設 名	

（ 計　画 ）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～		
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり		
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる		
事業の目的	学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図り、地域住民と生徒との異世代交流を通して地域の連帯感を高める。			
事業の内容	学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図るため、市内各小・中学校に学校支援地域コーディネータを設置し、学校支援ボランティアの派遣等を行いながら環境整備支援活動等を中心に支援を行った。			
事業対象	市民及び市内小中学校教員			
事業年度	□	区分指定無	■	平成 23年度　～　平成　　間

（ 実施内容 ）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	3,210	3,151	3,000
	内一般財源	1,406	1,315	1,000
	内国・県補助金	1,804	1,836	2,000
	内受益者負担			
	人件費　②	1,299	1,317	1,317
	総コスト①＋②	4,509	4,468	4,317

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	運営委員会に係る経費	千円	455	507	603
		教育支援活動に係る経費	千円	2,755	2,644	2,397
	事業成果					

（ 評　価 ）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	これまでの事業は、学校の花壇整備など環境整備中心の支援であり、地域住民や学校を訪れる保護者などから校内の花壇が見違えるほど美しくなったとの声が聞かれ、本事業が一定の効果をあげることができたと考えるが、さらに平成２５年度より食育やミシンなど家庭科支援にも取組みを行ってきた。							
事業の課題・問題点	支援を行うためのボランティアの確保が当初からの課題であったため、それぞれの学校でＰＴＡ総会での呼びかけや保護者への案内文の発送等で募集を行っていただく事により一定人数を確保する事ができた。更に学校との連携を行い支援ボランティア募集の記事を学校だより等に掲載し、地元住民の方を対象に配布するなどして一層の周知を図っていく必要がある。 保護者のボランティアの方々には、学校行事とＰＴＡ行事のはざまでご苦労いただいている。コーディネーターを中心に本事業の理解を深め、なお一層の効果を上げるよう検討したい。							

（ 有識者意見 ）

有識者意見	学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを見守り、育てていくために重要な事業である。地域の力を活用することで地域の人々が学校を愛し、皆で子どもたちを見守るという意識も高まることだろう。市内小中学校で成果をあげていただいていることに感謝し、今後益々の事業推進を期待する。 学校教育に地域が関わることは子どもにも教員にも住民にもメリットがある。地域全体で子育てを行う姿は理想であり、本事業はその第一歩である。ただ、昔は自然に行われていた事であろうから、行政が主体となって取り組まなければならない現状が最良とはいえない。

（ 方向性 ）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	本事業は、当初、花壇整備から始まり、昨年度からは一部学校での家庭科支援などが行われ、発展の途に着いたばかりである。今後も引き続き現事業を行いながら、どんな事業が子どもにとってふさわしいのか、どんな事業が保護者の理解や協力を得られるのか、模索しながら考えて行きたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	15
事務事業名	生涯学習まちづくり推進大会	担当課名	生涯学習課
係　　名	生涯学習係	施 設 名	

（ 計　画 ）

総合計画上の位置付け	政策の柱	参画・活力～市民と行政が目標を共有し、ともに取り組むまち～
	政策目標	市民参画による協働のまちづくりの推進
	施策目標	地域コミュニティ・団体を育てる
事業の目的	主に市内の小・中学校生の日頃の思いを発表する場とモデル分館(毎年２館指定)が、１年間の生涯学習活動の成果について発表を行う場として本事業を捉えており、明るく楽しい「生涯学習まちづくり」の推進を目指している。	
事業の内容	①平成２５年度モデル分館として指定を受けた大屋北コミュニティセンター及び南今市公民館による生涯学習活動発表 ・伝統文化の紹介、地域文化継承及び文化資源の保存等や地域防災活動の取組 ・花いっぱい活動や講座・教室等を通じた区民の交流の機会・場づくりを目指した取組 ②モデル分館指定を受けている２分館による手芸、絵画、写真等の展示 ③市内小中学校児童・生徒による学校での体験学習や生活発表的な作文の朗読 ④菊花展表彰式	
事業対象	市民	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（ 実施内容 ）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	544	544	544
	内一般財源	544	544	544
	内国・県補助金			
	内受益者負担			
	人件費　②	1,142	1,161	1,161
	総コスト①＋②	1,686	1,705	1,705

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	参加人数	人	603	520	600
	事業成果					

（ 評　価 ）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）						
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）						
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか）						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	平成２５年度にモデル分館と指定された２館による、各地域における伝統文化や新たな取組等の紹介が行われ、地域文化を再認識、そして新しい時代に即した文化を創造していく地域ぐるみでの取り組みなど、生涯学習活動を通じて地域住民の交流を図る良い機会となっていることに加えて、小中学生の作文発表や文化団体による発表などは、人生の糧となり得る貴重な体験をすることが出来る事業と考えている。						
事業の課題・問題点	モデル指定分館（２館）の発表について、残り２０数分館あまりとなり、複数分館を抱える大字については再度の活動報告を求められるケースが出てきている。本年度についても例年どおり輪番での２館で予定をしているが、特に対象者の少ない分館など昨年度と同様に複数分館を合同で行いたいとの意見もあり、今後実情に応じた対策を講じる必要があると思われる。 指定した分館に年度当初に行っている説明会では、不安を口にされる方も多く見受けられるが、生涯学習を糸口として、地区住民が地域の伝統行事や歴史、生活様式などを通じ、希薄になりつつある地域共同体の再生など、目標を持って取り組むことの重要性を理解してもらい、共通した目的を達成することの充実感を味わってもらえるよう指導している。						

（ 有識者意見 ）

有識者意見	人間関係の希薄化が社会全体の課題となっている。発表の機会を通じて人と人の繋がりが深まり、発表後も地域の連帯感が継続していくことが住みよい街づくりに発展すると思われる。市民の横の繋がりを強化できる事業である。 また、自分たちの地域の良さに気づく機会にもなると考える。運営面での課題も多く、担当課としての苦労もあるようだが、継続していただきたい。

（ 方向性 ）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	生涯学習活動を通じて地域住民の交流と連帯感を図る良い機会となっていると考える。今後もそうした活動が地域内住民のみならず、周辺住民にも良い波及効果を及ぼすよう、意見交換や情報公開も行って行きたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	16
事務事業名	子ども・若者育成支援事業	担当課名	生涯学習課
係　　名	子ども・若者育成支援係	施 設 名	

（ 計　画 ）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる
事業の目的	進学や就職をせず社会とのつながりが希薄になることで、自宅以外での生活の場が失われている子どもや若者に対し、法にもとづき「葛城市子ども・若者支援地域協議会」を設置し、行政分野や関係機関と連携して適切な支援を継続的に講じることにより健全な社会人として生活できるようサポートする。	
事業の内容	・平成２２年１０月７日に設置した「葛城市子ども・若者支援地域協議会」の運営 代表者会・実務者会および個別ケース検討会議の開催 開催議事運営・議事録の作成 ・相談窓口および面談室設置（當麻文化会館内サポートルームほか） 相談日　週４回（月・木・金・土）午前１０時～午後４時 継続的支援や関係機関等への紹介の実施 ・継続的な支援の実施	
事業対象	社会生活を円滑に営む上で困難を抱える子ども・若者とその家族	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（ 実施内容 ）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	7,155	7,611	7,875
	内一般財源	7,155	7,611	7,875
	内国・県補助金			
	内受益者負担			
	人件費　②	8,227	8,340	8,340
	総コスト①＋②	15,382	15,951	16,215

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	決算額	千円	7,155	7,611	7,875
		相談室設置	箇所	1	1	1
		面談室設置	箇所	1	1	1
	事業成果	相談件数	件	33	46	50
		相談回数	回	446	775	800

（ 評　価 ）

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	□	十分できている	□	できている	■	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	「葛城市子ども・若者支援地域協議会」について、実務者会議を１回、個別ケース検討会議を７回開催した。関係機関等と調整機関の相互交流も増加し、連携の下地作りも進んでいると考えられる。また支援者むけに『相互理解を深めるための小冊子』を作成した。 相談件数・回数についても大幅に増加傾向にあり、今後も続くものと予想される。１件あたりの相談回数は若干の増加傾向にあるが、相談の大半で主訴の解消や改善が見られたり、関係機関等へのリファーや情報提供を終えてたりしている。							
事業の課題・問題点	市関係部局や関係機関等の相互連携がより円滑に行われるように「葛城市子ども・若者支援地域協議会」の運営を進めることと、相談件数・回数の大幅な増加を踏まえ相談体制をより充実させていくことが課題である。							

評価を受けての改善点(過去３年間)	平成23年度　葛城市サポートルームの相談日を週１日から週４日へ拡充。 平成24年度　子ども・若者育成支援係に一般職職員を１名配置。 〃　葛城市サポートルームの臨床心理士を日替わりから専任に変更。 平成25年度　臨床心理士(非常勤：週１日)を１名増員。

（ 有識者意見 ）

有識者意見	臨床心理士１名の増員により前年度に比べ相談回数が大幅に増加し、事業の成果もあがっている。所属機関のなくなった若者がニート、ひきこもりになっていき、見過ごされていくことも考えられる。いわゆるニートの増加は社会全体の問題であり、若者の貧困、自死、孤独死などの原因にあがる。親が高齢化すればさらに状況も悪くなるだろう。関係機関の連携をはかり、事業がさらに推進されることを期待する。 №５のスクールカウンセラー事業と深く関わる事業である。全国水準に応じた事業を永続して行わなければならない。

（ 方向性 ）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	ニート、ひきこもりとなる若者のその原因は、時代の変化に伴い複雑、多様化してきている。相談件数の増加による配置人員やそれに伴う予算など、今後課題が浮き彫りになってくるものと考えられるが、関係機関との連携や役所内部の関係課とも連絡を密にし、相談業務の一層の充実を図って行きたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	17
事務事業名	公園まつり実行委員会業務	担当課名	中央公民館
係　　名	中央公民館係	施 設 名	中央公民館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	互いの人権を尊重し、思いやりのある心と健全な精神を育てる
事業の目的	地域住民が集う中で、市民ひとりひとりが仲間としての絆を強め、地域文化への理解をより一層深めることで誇りをもった活力あるまちづくりへの参加を目的とする。	
事業の内容	葛城市公園まつり実行委員会を主催者として、葛城市体育協会および区長会をはじめとする約２２団体の協賛により屋敷山公園一帯での野外イベントを実施。 踊りに太鼓、戦隊ショー、パフォーマンスショー、演劇、吹奏楽、模擬店、フリーマーケット、盆栽店、似顔絵、古本市にニュースポーツなど盛大に行なった。	
事業対象	市内地域対象住民	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（実施内容）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	1,500	1,500	1,500
	内一般財源	1,500	1,500	1,500
	内国・県補助金			
	内受益者負担			
	人件費　②	2,972	2,985	2,911
	総コスト①＋②	4,472	4,485	4,411

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	決算額	千円	1,488	1,452	1,500
		企画運営委員会	回	1	1	1
		実行委員会	回	1	1	1
	事業成果	参加人数	人	10,000	10,000	8,000
		協賛団体	団体	22	22	22

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	■	十分できている	□	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	例年、ゴールデンウィーク期間中開催の上記事業は日程が定まっていなかったが、平成２５年度より実行委員会において５月３日の開催に確定した。 当日は、朝から好天に恵まれ、多数の来場者で幕が開け、終日、全てのイベントにおいて大盛況のなか、幕を閉じた。							
事業の課題・問題点	昭和５０年から４０年近く続いている伝統ある公園まつりだが、同事業は毎年の開催で、特に事業柱でもあるイベント内容においては、マンネリ化しないよう工夫を凝らさないといけない。 また、協賛いただいている各種団体の方々にも公園まつり事業を実施してよかったと思っていただけるような体制作りに工夫を凝らせていかなければならない。							

評価を受けての改善点（過去３年間）	平成２４年度から事務局を中央公民館へ移したことで、作業準備がスムースに実施できた。 また、周辺の交通事情においても、昨年度から会場一帯のループ化と警備員の誘導で、特に交通渋滞も引き起こすこともなく実施できた。

（有識者意見）

有識者意見	日程の固定化や県道の渋滞対策も評価できる。特に日程の固定は、参加者にとっても連休の予定を立てやすく、参加者の増加に繋がるのではないか。 携わっていただく関係者の方々からの協力により、４０年近く続く伝統ある事業として、葛城市民だけでなく近隣の人たちにも楽しみにしていただいているイベントである。伝統ある行事だけに、常に刷新を考え、地域の人をもっと巻き込んでさらに発展していただきたい。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	■	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	懸案であった日程の固定化、交通渋滞の解消などの対策が好評価をいただいた。 今後はイベント内容がマンネリ化しないよう更に工夫を凝らしたい。 また当事業は、今後末永く継続していく事業とするため、協力団体と連携を取りながら、来園者に喜び親しんでいただけるよう更に努めていきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	18
事務事業名	地区館教室・講座事業	担当課名	中央公民館（當麻文化会館）
係　　名	地区館係	施 設 名	５　地　区　館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	必要な知識や能力を身につけられるようにする
事業の目的	生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味を同じくする人々や教養を身につけたいと思う人々が地区館に通い、自主的な活動を推進する機会を提供するとともに、交流を深め、活動の輪を広げる。	
事業の内容	市内５地区館（疋田、忍海、北花内、磐城、當麻）において、 絵画、手芸、 いきいき体操、絵手紙、押し花、俳句、書道、 華道、茶道、民謡、料理、太極拳 等の教室・講座を各種４回～２０回を開催。	
事業対象	市内　在住・在勤者	
事業年度	■　区分指定無　□　平成　～　平成　間	

（実施内容）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	1,104	1,082	1,140
	内一般財源	1,104	1,082	1,140
	内国・県補助金			
	内受益者負担			
	人件費　②	915	951	1,317
	総コスト①＋②	2,019	2,033	2,457

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	各種教室・講座	総回数	129	165	136
	事業成果	参加人数	人	272	252	276

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）						
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）						
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	主な取組みとして、以下を事業の達成を目的としている。 例年、２つの教室においてスタッフが同席し、全受講者の学習能力を高めるために新規受講者と継続受講者の学習調整を行うなど、講師とも協力のうえ教室の支援を行っている。 受講者が学習していく過程において、他の受講生との繋がりをもつことで、「学ぶ」という共通項のもと、人間関係が築かれ、教室に一体感が生じ、教室・講座をより楽しいものと考えていただくことで学習効果が上がるように努めた。						
事業の課題・問題点	新講座開設の要望もあるが、予算と場所の関係もあり、引き続き検討課題事項である。 毎年継続して受講しておられる方が多数あり、新しい受講者と習熟度に違いが生じている教室・講座もある。新講座開設の課題と合わせて考えていかねばならない。 定員をオーバーした教室・講座が５教室ある。講師の好意と受講者の理解により実施することができたが、昨年度に引き続き今後の課題点である。						

（有識者意見）

有識者意見	市民誰もが平等に学ぶことのできる場を提供する事業である。市内で分散し開催していること、内容を入れ替えて実施していることが評価できる。地区館での教室・講座を、通いやすさから楽しみにされている人もあると思われる。高齢で遠くへは出かけにくい受講者にとっては生活の潤いにもなっている。 共に学びあうことを通じて連帯感も生まれると考える。工夫・改善しながら継続して欲しい。 ただ、回数（単位数）の面で、５箇所に少し差があるように思う。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	■	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	市民の身近にある地区館で、趣味を共にする人と楽しみと喜びを共有し、繋がりをもって学べる機会を増やしていく。実施回数の少ない講座の見直しを図り、受講者の要望に応えていく。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	19
事務事業名	中央公民館　當麻文化会館 教室・講座事業	担当課名	中央公民館・當麻文化会館
係　　名	中央公民館係	施 設 名	中央公民館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	必要な知識や能力を身につけられるようにする
事業の目的	市民等の教育、学術、文化及び教育向上のため、「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。	
事業の内容	『社会教育法』第20条(目的)、第22条(公民館の事業)ならびに『公民館の設置及び運営に関する基準』第３条(地域の学習拠点としての機能の発揮)に基づき、市民等の教育、学術、文化及び教養の向上のための「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。 １．中央公民館 ７教室　〔成人⑤：華道、きもの着付け等　子ども②：絵画、茶道〕 １８講座　〔成人⑪：菊づくり、ガーデニング、暮らしのマナー　等 子ども⑦：親子クッキング(土)　(日)、 親子お菓子・パンづくり（土）（日）、 親子陶芸（土）（日）、野外活動体験　等〕 ２．當麻文化会館 １８講座　〔成人⑮：絵画、パソコン講座（入門等６コース）等 子ども③：親子おもしろ工作、寺子屋、葛城塾〕	
事業対象	市内在住者・在勤者	
事業年度	■　区分指定無　□　平成　～　平成　間	

（実施内容）

事業コスト（単位：千円）	区　分		平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
	事業費　①		3,936	4,065	4,242
	内一般財源		3,936	4,065	4,242
	内国・県補助金				
	内受益者負担				
	人件費　②		10,503	11,171	12,708
	総コスト①＋②		14,439	15,236	16,950
実績と成　果	区　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
事業実績	中央公民館	謝金	2,441	2,565	2,832
	當麻文化会館	謝金	1,495	1,500	1,410
	合計	謝金	3,936	4,065	4,242
事業成果	中央公民館	受講者数	3,698	3,426	3,828
	當麻文化会館	受講者数	2,475	2,343	1,855
	合計	受講者数	6,173	5,769	5,683

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）						
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）						
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献できていない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	学習の促進とふれあいの場を提供することを目的に、成人・子ども・親子を対象とした各種教室・講座を実施開催している。 成人講座では、華道、茶道、書道、料理、着付け、ヨガ、パソコンといった趣味や教養を活かした講座をはじめ、子ども・親子では〝作る楽しさ〟を学ぶ、料理やパン・菓子づくり、陶芸を開催した。 また、夏休みには子ども向けのイベント講座として、野外活動体験、寺子屋も開催しており、どの講座も人気で、受講者の受講意識や関心が非常に高く、結果、親子対象講座、パソコン講座をはじめ多くの講座が抽選となっている。						
事業の課題・問題点	教室・講座は受講料が無料（教材費等は受講者負担）のため少数ではあるが、安易に締切後に教室・講座を辞退される方がおられるため、教材費が発生する講座については、発注が生じることから、費用負担をお願いしている。 その他では、同じ教室や講座を連続しての受講が毎年、散見される。 （定員を超える申込がある場合、抽選の場合は新規応募者を優先。）						

（有識者意見）

有識者意見	内容の多様性、量共に評価できる。定員に対しての動員結果も良好で、市民へのＰＲもまずまずできていると思われる。 子どもから大人まで幅広い年齢層に対応した教室・講座の開催により、市民の学習の場として成果をあげている。 今後も受講後の感想や意見を把握し、教室や講座開設に活かしていただきたい。抽選になる講座については、なるべく受講できるよう日程、回数等を見直せないか。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	■	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	事業の内容等において、好評価をいただいたと感じている。課題となっている点は職員間でも検討協議を行っていきたい。 また抽選となる講座については、少しでも多くの方に受講いただけるよう、今後、見直しを含めた検討課題としたい。 今後は、受講者の動向や状況を把握し経過状況を見据えながら、市民の要望や地域性を活かし、受講者が興味の湧く講座を考えていきたい。 そして、「学べる場」と「ふれあいの場」を提供できる運営に努めたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	20
事務事業名	文化振興事業	担当課名	新庄・當麻文化会館
係　　名	総務係・文化会館係	施 設 名	新庄・當麻文化会館

（ 計　画 ）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～		
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり		
	施策目標	芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする		
事業の目的	市民に質の高い文化に触れる機会を設け、葛城市芸術文化を発信し、創出する。			
事業の内容	魅力ある自主事業を展開することによって、新たな芸術、文化ファンを増やし、地域の文化水準の向上を目指す。 毎年、コンサート、子ども劇場、お笑い劇場等の公演を実施している。また、市民参加・参画型事業として「J-ポップ限定のど自慢」や葛城市民劇団「風塾」「くすのき」等による演劇公演も実施する。			
事業対象	市民及び近隣市町村の住民			
事業年度	■	区分指定無	□	平成　　～　平成　　間

（ 実施内容 ）

事業コスト（単位：千円）	区　　分		平成２4年度決算	平成２5年度決算	平成２6年度予算
	事業費　①		16,639	14,495	17,114
	内一般財源		9,875	7,505	10,614
	内国・県補助金				
	内受益者負担		6,764	6,990	6,500
	人件費　②		6,726	6,726	6,743
	総コスト①＋②		23,365	21,221	23,857
実績と成　果	区　　分	単位	平成２4年度実績	平成２5年度実績	平成２6年度(目標)
	事業実績	自主事業入場料	千円	6,764	7,189	6,500
		自主事業委託料等料	千円	16,639	15,495	16,700
	事業成果	自主事業入場数	人	4,401	3,698	3,350
		自主事業(有料)開催数	本	3	4	3
		自主事業(無料)開催数	本	8	6	6

（ 評　価 ）

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)						
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)						
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)						
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説　明	市民参加・参画型のミュージックフェスティバル、市民劇団、アンサンブルウイズ等の公演事業は周知がかなり進み、市民が手軽に文化や芸術と触れあえる機会、自らが創造、発信するかけがえのない機会として大変有意義なものとなっている。						
事業の課題・問題点	有料の事業については、市民が興味や関心、期待感を持ち、満足していただける事業を実施することで、集客人員の増加が期待できる。アンケート等を実施し観客ニーズにあった公演等にしぼりこんで計画し満席にする方向を目指しているが、財政面から考えると、観客のニーズにあった自主事業でさえキャパシティの面で事業コストの課題が残るため、事業本来の目的と市民ニーズのかねあい等を十分に慎重に検討していきたい。また新庄、當麻両文化会館とも築２２年以上経過しているため施設改修が必須であり今年度は新庄文化会館の舞台照明設備改修（第２期）を行い、安心安全かつよりよい環境のもとで利用していただけるよう両文化会館の改修計画が今後の課題でもある。						

評価を受けての改善点(過去３年間)	ポスターチラシ等を置いてもらえる場所の発掘や、タウン誌などの無料広告を利用して他方面に周知し宣伝効果を上げることによって集客につなげられた。自主事業公演時に毎回アンケートを実施し、ニーズにあった催しを開催することでチケット完売を達成できた。さらに新たな試みとして「友の会」特権としてのイベント開催や「よしもと」との共催事業も行い会場をおおいに盛り上げた。また新庄文化会館２０周年、當麻文化会館２５周年事業もお金をかけずに「NHKふるさと自慢うた自慢」や「宝くじ文化事業」の冠事業を行い盛況に終えることができた。

（ 有識者意見 ）

有　識　者意　　見	文化を身近に感じていただける良い機会となるよう、市民のニーズにあった事業の計画・展開を期待する。集客力とコストを考えると赤字になってしまうという問題があるが、だからといってすぐ新施設を、というのは本末転倒である。本事業を呼び水のような事業と考え、予算を投入し、他方面で施設の有効活用に繋げ、トータルで考えてはどうか。 市民参加・参画型事業は回を重ね、市民の発表の場として位置づいてきていると感じる。

（ 方向性 ）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	■	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	心の豊かさが求められ、生活の中に文化芸術の必要性がクローズアップされる昨今、公立文化施設の舞台は本物の舞台芸術に触れる場であり、地域の文化団体の活動に必要不可欠の「場」である。施設の「顔」として位置づけられる自主事業の選択には今後も万全を期して取り組んでいかなければならない。地域に眠っている潜在的な鑑賞者に関心をもってもらえる企画立案、魅力的な自主事業を展開することで施設そのものの付加価値があがり、貸館利用者の増加にも繋げていきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	21
事務事業名	展示（常設展・特別展等）事業	担当課名	歴史博物館
係　　名	歴史博物館	施 設 名	歴史博物館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進
	施策目標	歴史遺産をまもり、来訪者を増やす
事業の目的	展示会を通じて地域の歴史文化を紹介し、市民が地域の伝統文化等に関心を高め、愛郷心が育まれるようにしたい。	
事業の内容	展示会（年間企画展３回・特別展１回）の開催、展示図録・目録等の発行。	
事業対象	市民等来館者	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　～　平成　間

（実施内容）

	区　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	3,459	3,031	4,294
	内一般財源	2,428	1,924	3,732
	内国・県補助金	0	0	0
	内受益者負担	1,031	1,107	562
	人件費　②	10,587	10,587	10,587
	総コスト①＋②	14,046	13,618	14,881

		区　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	入館者数	人	5,011	4,986	5,000
	事業成果					

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	葛城市広報や県広報、市内放送、市内各区の掲示板へのポスター掲示、新聞報道などを活用し、市民に対して特別展等の開催をお知らせしている。これにより郷土の歴史に対し関心を持つ市民等に、特別展等の開催内容について広く周知が出来ていると思われる。入館者数においては、顕著な増加は無いが、年４回の特別展・企画展等の開催により安定した観覧者数の傾向が見られることから、一人でも多くの市民に入館していただけるように更なる効果的な周知方法を見出す必要がある。							
事業の課題・問題点	特別展・企画展は例年通り年合計４回の開催を予定しているが、当館及び各所広告経費の予算削減により広告範囲が縮小気味となりつつあるため、催し物情報の発信範囲が狭まり、市内や市外など広くに情報発信が届きにくい状態となってきている。このことから、経費のかからない新たな効果的広告手段の模索が必要となってきている。展示事業等の開催経費についても徐々に予算削減となっており、予算の効果的な運用努力を行うものの、社会教育推進の一翼を担う公的博物館活動の普及啓蒙を推進するうえにおいて、厳しい状況である。							

（有識者意見）

有識者意見	県下有数の文化財を有する市として、このような博物館がある事は誇るべきことだが、入館者数の伸び悩みが課題である。近隣の市町村を巻き込んで葛城地域の歴史博物館となれるかどうかがこの施設の今後を左右するのではないか。市単独で歴史博物館を維持していく難しさを感じる。 予算削減の状況で苦しい運営を迫られている中、予算の配分を工夫し、特別展の開催を実施していることに感謝する。広報誌やポスターで周知しているが、入館者数を増やすためには市外への発信方法も検討されたい。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	■	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	当博物館の活動を広く認知していただけるよう、市民の方々はもとより、市外に向けてさらに効果的な広報活動をしていくため、フリーペーパー等の雑誌やインターネットなどの催し物案内の紙面に掲載してもらえるよう各方面に対して情報発信を行なう。同時に、ポスターやチラシによる地道な広報活動も継続して続けられるよう、活動内容発信の為の経費や博物館普及活動と施設の維持管理経費に対しても、その必要性を訴え予算要望をしてまいりたい。そして、市民・児童生徒が葛城の歴史・伝統文化に関心と親しみを持ち、郷土を愛する心を育んでいけるような事業展開を更に推進すべく努力してまいりたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	22
事務事業名	歴史講座開催事業	担当課名	歴史博物館
係　　名	歴史博物館	施 設 名	歴史博物館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進
	施策目標	歴史遺産をまもり、来訪者を増やす
事業の目的	歴史講座等を通じて地域の歴史文化を紹介し、市民が地域の伝統文化等に関心を高め、愛郷心が育まれるようにしたい。	
事業の内容	葛城地域の歴史文化や新しい歴史研究の成果について本講座において、わかりやすく紹介することにより、地域の歴史文化への理解を更に深めると共に、市民の愛郷心を育むことを目標に歴史文化講演会「葛城学へのいざない」を年間１２回にわたり開催する。 また、夏季には高学年児童を対象に土器等を制作体験する親子ふれあい講座、秋には市内にて歴史ウォークを開催する。	
事業対象	市民等来館者	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（実施内容）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	230	220	320
	内一般財源	230	220	320
	内国・県補助金	0	0	0
	内受益者負担	0	0	0
	人件費　②	950	950	950
	総コスト①＋②	1,180	1,170	1,270

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	参加者数	人	1,351	1,547	1,300
	事業成果					

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	葛城市広報や市内放送、新聞報道などを利用し、市民に対して歴史講座等の開催をお知らせしている。これにより郷土史に関心を示す市民等に歴史講座の開催内容が周知出来ていると考えられる。また、当事業の講座は毎回平均100名程度の参加者を得ており、参加者からの意見では内容についても好評である。今後はより一層効果的な周知方法や講座内容について検討し、一人でも多くの市民に受講していただけるようにしていく必要がある。							
事業の課題・問題点	例年通り葛城地域にまつわる歴史文化をテーマとする歴史文化講座「葛城学へのいざない」の開催を年合計１２回を予定する。葛城をテーマにした講座開催であることから講座の話題も限られるが、講座内容を十分に検討すると共に、H25年度は、葛城市が推進する竹内街道設置１４００年記念事業や奈良国立博物館・當麻寺主催の當麻寺展との連携を図り、前年を上回る多くの受講者を集めることが出来た。これからも郷土の歴史文化への正しい理解と郷土への愛郷心の向上に努めることのできる市民の為の普及講座として長く継続し、引き続き、多数の市民に講座に参加してもらえるようにしていくことが課題である。 問題点としては、講師への謝金に対しても予算削減を求められる状態にある中で、市民のために充実した講座を維持していくためにも、内容の低下も危惧される事のないよう安定した予算措置が是非必要な状況である。							

（有識者意見）

有識者意見	ホールのキャパシティから考えてもまずまずの参加者数ではないか。生涯学習の一環としてふるさとの歴史を知ることも重要であり、歴史に興味を持つ方は講座開催を楽しみにされていると思われる。今後も博物館の事業として位置付き、継続して行うことのできるよう、予算の見直し・検討をお願いしたい。 しかしながら、現状では既に興味を有する人が何度も通う講座という印象がある。重要なのは興味の無い方への敷居を下げることであろう。一見歴史とは関係なさそうなイベントが実は！というような取り組みを検討してはどうか。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	■	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	郷土の先人により築かれ、守り継がれてきた葛城市の歴史文化が今後も保全・継承されるよう、郷土に関する歴史事象や伝統文化などに焦点をあてた講座等の開催を引き続き継続してまいりたい。 また、基本的には葛城地域の歴史文化を広く深く解かり易くご紹介するなど、広くその葛城学の普及啓発に努め、市民が地域の伝統文化等に関心を深め、葛城市への郷土愛がさらに高まるよう普及活動を実施できるよう努力したい。更に、多くの市民に参加いただけるよう、一見歴史とは関係なさそうなイベント実施についても検討し、その予算化についても要望してまいりたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	23
事務事業名	埋蔵文化財等調査事業	担当課名	教育総務課・歴史博物館
係　　名	文化財係・歴史博物館	施 設 名	教育総務課・歴史博物館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進
	施策目標	歴史遺産をまもり、来訪者を増やす
事業の目的	市内地域の埋蔵文化財の保護。	
事業の内容	市内遺跡内で工事が行われるに際し、提出される発掘届出書を県教委へ進達する。それについて県教委から出される指導事項に従い、市の担当職員が現場にて発掘調査や現場立会等を実施し、調査結果報告書を作成し、県教委へ提出する。また、市内遺跡の範囲確認等のため発掘等の調査や記録保存等のための発掘調査を市教育委員会が主体となり実施し、詳細な調査記録をまとめた報告書を作成し、国・県へ報告すると共に各研究機関にも配布し、埋蔵文化財の保存・研究のために資する。	
事業対象	一般事業者・市民	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　～　平成　間

（実施内容）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	2,000	2,000	2,000
	内一般財源	500	500	500
	内国・県補助金	1,500	1,500	1,500
	内受益者負担	0	0	0
	人件費　②	3,352	3,352	3,352
	総コスト①＋②	5,352	5,352	5,352

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	調査事業	件	8	10	10
		立会等	件	12	14	10
	事業成果					

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	合併に伴い葛城市になったことで、埋蔵文化財包蔵地エリアも増大した。また、当該エリア内における開発件数も共に増加していることから、調査事業も人員的に困難ではあるが、他事業との兼ね合い調整の結果、着実に実施し成果を上げている。							
事業の課題・問題点	合併に伴い葛城市になったことで、埋蔵文化財包蔵地エリアも増大し、当該エリア内における開発件数も共に増加している。また、分譲住宅開発等土地開発事業が増加傾向にある中で、現場対応できる技術職員配置体制が１名と、旧町体制レベルのままであり、更に博物館業務と兼務であることから、博物館事業との兼ね合いに多くの困難を呈する状況である。埋蔵文化財を主担当とする職員が、文化財を有する他の県内市町村なみに配置出来ていないことに問題と課題がある。更に、現場における発掘調査に対応できる職員も４０歳代であり、早急な後継者の育成も必要である。ついては今後、文化財係の中に文化財行政業務に対応できる専門技術職員の配置をする必要があるのはもちろんの事であるが、増加するであろう発掘調査等の事象や文化財保護のため、行政事務を円滑に対応する為にも、新規技術職員等の配置が早期に必要な状況である。							

（有識者意見）

有識者意見	専門技術員の配置が現在１名で文化財行政業務に対応している現状は負担が大きいと思われる。発展途上にある葛城市において、開発に伴う調査の遅延は許されない。市内の住宅開発が進んでいる現状に対応できる体制作りが急がれる。地域の文化財を守っていくためにも専門職員の増加を検討していただきたい。歴史的に見ても島根の荒神谷遺跡のような大発見があってもおかしくないので、後継者の育成も含め、市の発展に応じた人材配置が望ましい。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	本市における発掘調査等の埋蔵文化財保護業務については、歴史文化的環境を大切にしながら将来の市のまちづくりを計画的に推し進める上で欠かせない事業である。特に本市の平野部地域等については、開発の増加が見込まれる地域でもあり、本市発展の為の開発等に伴う調査の遅延は許されない。しかしながら、当該業務に対応できる技術職員数は旧町体制のままであり、人事的に困難な面も多々伴う状況である。関係機関とも十分に連携をとり、効率的な事務事業の執行に務め、計画的かつ円滑に当該事業が実施できるよう努めると共に、当該業務の円滑化を進める上で、関係職員の増員についても引き続き要望していきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	24
事務事業名	文化財保存事業	担当課名	教育総務課・歴史博物館
係　　名	文化財係・歴史博物館	施 設 名	教育総務課・歴史博物館

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	愛着・快適～自然や歴史遺産の豊かさと住みよさが共存する、愛されるまち～
	政策目標	歴史・文化の保全・継承と交流の促進
	施策目標	歴史遺産をまもり、来訪者を増やす
事業の目的	市内における国宝等指定文化財の保存事業。	
事業の内容	市内にある歴史遺産（国宝・重要文化財等）保存のため、文化財所有者等が行う保存修理などの「文化財保存事業」が実施されるにあたり、市内の歴史文化を保全・継承していく為に国・県と共に葛城市も事業助成を行った。平成２５年度は重要文化財當麻奥院本堂・方丈保存修理及び村井家住宅保存修理事業ほか４件の保存事業が所有者等により実施され、その事業助成を実施した。また、平成２６年度において新たに国宝綴織當麻曼荼羅の保存修理が数ヵ年継続事業として計画され、その事業助成も予定されている。	
事業対象	市内の国宝等指定文化財所有者	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（実施内容）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	128,337	110,218	227,583
	内一般財源	5,939	4,692	5,221
	内国・県補助金	98,209	84,983	202,020
	内受益者負担	24,189	20,543	20,342
	人件費　②	1,089	1,089	1,089
	総コスト①＋②	129,426	111,307	228,672

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	市内重要文化財等	件	6	6	8
	事業成果					

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	■	増加	□	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	■	十分貢献している	□	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	A	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	わが国の各地域で長い間守り伝えられてきた文化財は、日本の伝統文化を今に伝え、また未来へ伝える必要のある大切なものである。しかし、文化財の多くは長年の経過により本体が脆弱で定期的な保存修理等が必要である。市内の重要文化財等のうち、保存修理が急がれる奥院本堂・方丈の保存修理、村井家住宅保存修理事業等の文化財保存事業が継続事業として既に実施され、今年度からは新たに国宝綴織當麻曼荼羅の保存修理が数ヵ年継続事業として予定されている。歴史遺産を守ることを市の重要施策目標とするうえで、文化財保存の為の事業に対し今後とも事業助成の必要がある。							
事業の課題・問題点	文化財は日本の地域伝統文化を今に伝え、また未来へ引き継ぐべき大切なものであることをふまえ、歴史遺産の保護を市の重要施策目標とするうえにおいて事業助成は必要である。ただ、文化財の保存に要する経費は決して低くないことから、文化財所有者にとっても、また助成する市にとっても、厳しい財政状態の中で決して容易な負担額ではない。しかし、財政的に困難であっても文化財保存を市の重要な施策とし、今後も国・県・所有者とともに継続して取り組む必要があり、当面はその予算確保が課題である。							

（有識者意見）

有識者意見	国民の宝である文化財は、市のシンボルであり、市民にとっても誇りである。今まで百年・千年単位で人々が守り続けてきたものを、現代の我々が百年後、千年後にどう残していくかを考えたときに疎かに出来ない事業である。厳しい財政状況とはいえ、事業助成は継続して文化財保存事業を計画的に推進していただきたい。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	文化財所有者のみならず国民の財産でもある市内に存在する歴史文化遺産の保護は、国・県と共に本市の責務である。その重要性に鑑みて今後も関係機関と連携しながら適正な保存事業が行われるように細心の注意や配慮を継続して行うと共に、文化財保存の事業助成については、国・県と連携のもと、財政状況も勘案のうえ可能なかぎり計画的かつ適正に実施できるよう予算確保に努めたい。 また、市民に対し文化財保護の為の財政負担についても、市内文化財の一つひとつが、わが国の歴史文化の歩みや発展を知るうえでたいへん貴重なものであることなど、その重要性の啓発に努め、理解を頂けるよう努力したい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	25
事務事業名	各種教室開催事業	担当課名	体育振興課
係　　名	体育振興係	施 設 名	

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする
事業の目的	市民に教室等を紹介し、スポーツに親しむ機会を提供して健康増進を図る。	
事業の内容	在住・在勤者を対象に、スポーツに親しんでいただくきっかけづくりのため各教室を開催する。幅広い年齢層のスポーツニーズおよび教室の実施対象者のニーズを把握し、できるだけ多くの方の参加を目指す（初心者優先）。 年齢や生活環境に適した幅広い市民のスポーツ人口の増加推進に努める。また、親子テニス教室や親子体操教室のように親子でふれあえる教室のニーズが高まっているので、さらに充実していく。	
事業対象	教室・講座受講者（市内在住・在勤者）	
事業年度	■ 区分指定無	□ 平成　　～　平成　　間

（実施内容）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	1,673	1,547	1,722
	内一般財源	1,673	1,547	1,722
	内国・県補助金	0	0	0
	内受益者負担	0	0	0
	人件費　②	2,627	2,560	2,560
	総コスト①＋②	4,300	4,107	4,282

	区　　分		単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	小学生	千円	882	882	882
		一般	千円	560	420	560
		親子教室	千円	231	245	280
	事業成果	小学生	人	135	174	200
		一般	人	68	57	70
		親子教室	組	38	31	30

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	親子対象の教室や子供向けのテニスおよびサッカー教室は人気があり、親子のふれあい並びに子どもの体力向上、バランス感覚養成に役立っていると思われる。 今後、さらに市民のニーズに応えて体力づくり・健康増進に繋がる事業としていきたい。							
事業の課題・問題点	全ての教室生にスポーツの魅力を教え今後クラブ員として活動できるよう導き、教室生は初心者のみの参加となるよう説明する必要がある。							

評価を受けての改善点（過去３年間）	平成２４年度からテニス教室の人気により、新庄地区（屋敷山テニスコート）でジュニアテニス教室を開始し、新庄スポーツセンターでは子どものバランス感覚を養うためジュニア体操教室を始めた。また、エアロビクスについては男性も参加できるよう募集条件を改正した。

（有識者意見）

有識者意見	主要なスポーツの教室を開催しており、他のクラブ活動やスポーツ少年団とも合わせて充実している。需要と供給のバランスも取れていると思われる。 時代の流れと共に人気のあるスポーツも変化していく。常に市民のスポーツに対するニーズを把握しながら、各教室の開催に活かしていただきたい。 平成２５年度は小学生の参加が大幅に増えており、喜ばしい。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	■	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	スポーツに親しむことで市民の健康増進及び体力向上に寄与するため、今後も市民のスポーツに対するニーズを把握しながらメニューを精査し継続していく。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	26
事務事業名	各種スポーツ大会等開催事業	担当課名	体育振興課
係　　名	体育振興係	施 設 名	

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする
事業の目的	各種スポーツ大会等を企画し市民の参加を促す。	
事業の内容	市民が積極的に参加できる各種大会の開催や後援などを通してスポーツの振興を図り、健康・体力づくりを支援する。市体育協会及び加盟団体とともにスポーツへの関心を高め、生涯スポーツの振興と体力・健康づくり及び技術の向上を図る。 市民体育祭をはじめとする各種のスポーツ・レクリエーション大会等の行事については、参加及び実践意欲の向上をかんがみて内容等を検討し、さらに多くの市民がスポーツに親しむように努める。	
事業対象	大会参加者（市内在住・在勤者）	
事業年度	■　区分指定無　□　平成　～　平成　間	

（実施内容）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	4,548	4,548	4,548
	内一般財源	4,548	4,548	4,548
	内国・県補助金	0	0	0
	内受益者負担	0	0	0
	人件費　②	5,286	4,828	4,828
	総コスト①＋②	9,834	9,376	9,376

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	大会事業費	千円	4,548	4,548	4,548
	事業成果	大会参加者数	人	9,854	9,907	10,000

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	参加者数は横ばい状態であるが、今後新しいメニューも取り入れることも団体等と検討し、ローコストでハイリターンの大会運営を目指していく。							
事業の課題・問題点	平成１６年１０月に旧當麻町と旧新庄町が合併して以降、大会メニューがほとんど変わっていないので、新しい手法を加え大会を盛り上げることを考える時期にあると思われる。							

（有識者意見）

有識者意見	数多くの大会を主催しており、市民の参加も盛んである。多くの事業をこの予算でやりくりされている点についても評価できる。 市民体育祭やマラソン大会など、市の大きな事業として位置付き、開催を心待ちにしている市民もおられることと思う。大会参加を目指して練習に励み、チームとして協力していくことが生きがいにもなっていくだろう。 各種目の参加人数の推移を把握しながら、新しい企画を考えてさらに盛り上げていただきたい。マンネリ化を防ぎ、新たな参加者を開拓する行動を今から進めておくと、ニーズに合わせて余裕を持って対応できるのではないか。

（方向性）

事業の方向性	■	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	□	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	総合スポーツクラブの設立を目標にするとともに現状以上の参加者が参加できるものにスムーズに移行できるよう構築していく。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	27
事務事業名	体育施設の運営事業	担当課名	体育振興課
係　　名	体育振興係	施 設 名	

（計画）

総合計画上の位置付け	政策の柱	やさしさ・生きがい～心豊かな人が育ち、誰もが生きがいをもって過ごすまち～
	政策目標	学校教育や生涯学習による心豊かな人づくり
	施策目標	芸術文化活動やスポーツ活動などを活発にする
事業の目的	体育施設の安全で効率的な管理および運営	
事業の内容	体育館　４カ所 　當麻スポーツセンター体育館、市民体育館、新庄スポーツセンター体育館、いきがい体育館 運動場　４カ所 　當麻健民運動場、新庄第１健民運動場、新庄第２健民運動場、新町球技場 テニスコート　３ヶ所 　當麻スポーツセンターテニスコート、新町公園テニスコート、屋敷山公園テニスコート プール　２ヶ所　新庄、當麻両スポーツセンタープール 上記体育施設の維持管理・運営を行っている。	
事業対象	施設利用者（市内在住・在勤者）	
事業年度	■　区分指定無	□　平成　　～　平成　　間

（実施内容）

	区　　分	平成２４年度決算	平成２５年度決算	平成２６年度予算
事業コスト（単位：千円）	事業費　①	41,109	92,428	65,909
	内一般財源	39,608	91,154	64,984
	内国・県補助金			
	内受益者負担	1,501	1,274	925
	人件費　②	5,156	5,780	5,780
	総コスト①＋②	46,265	98,208	71,689

		区　　分	単位	平成２４年度実績	平成２５年度実績	平成２６年度(目標)
実績と成　果	事業実績	施設管理費	千円	41,109	92,428	65,909
		内修繕、工事費	千円	17,797	44,714	32,828
	事業成果	施設利用者	人	164,041	159,915	170,000

（評価）

事業の評価	妥当性（市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか）							
	□	増加	■	横ばい	□	減少	□	かなり減少
	有効性（施策目標の実現に貢献しているか）							
	□	十分貢献している	■	概ね貢献している	□	あまり貢献していない	□	貢献していない
	経済・効率性（事務効率化、コスト縮減しているか。）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
	目標達成度（計画通りに目標を達成できたか）							
	□	十分できている	■	できている	□	あまりできていない	□	できていない
総合評価	B	A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要						
評価の説明	安全かつ快適に施設をご利用いただくために、点検・改修を行っている。平成２４年度は夜間照明の改修等を実施し、平成２５年度において体力づくりセンターのリニューアル工事を実施した。今後も施設の老朽化に伴う定期点検および改修を行い、市民が快適に利用していただけるよう努めていく必要がある。							
事業の課題・問題点	施設の老朽化に伴い、抜本的な改修計画（改築、補強、取り壊し等を視野にいれた検討）が必要と思われる。 また、利用者のマナーアップ意識を高めて施設、器具を大切にご使用いただきたい。							

（有識者意見）

有識者意見	市が管理する体育施設が多い中、少ない人員で施設の維持管理に力を尽くしている点に感謝する。老朽化に伴う危険箇所の点検、修理、改修を計画的に実施し、安心して使用できる施設として維持管理をお願いしたい。 施設がある限り点検、改修はつきものである。施設の中には広域避難所を兼ねているものもあり、それが多くあることは市民の安心にも繋がる。 しかしながら、新市合併以降、重複する施設があり続けるわけで、老朽化が限界に達すれば決断しなければならない時がくる。平行してその議論も進めていただきたい。 利用者はリピーターが多いようだが、公共の施設を大切に使う意識を高めるための工夫も必要ではないか。

（方向性）

事業の方向性	□	さらに重点化する	□	事業の縮小を検討する
	□	現状のまま継続する	□	休止、廃止を検討する
	■	見直しのうえ継続する	□	終了・完了
施策等への反映方針 （上記を踏まえての担当課意見・数値目標等）	平成１６年１０月の合併以降、重複施設の老朽化の問題があり議論の必要がある。 今後は施設の統廃合も含め検討していく。			

７．点検及び評価のまとめ

教育に関する事務の点検及び評価報告書（各事業評価シート）について、教育委員会より以下の意見を受けました。

（１）各事業に対する意見について

事業 No. 3　　相談（来室・訪問）事業・研修支援

電話相談及び来室相談者のプライバシー保護の観点から、教室に通う児童・生徒に相談内容が聞こえないよう施設改修を望む。

発達障害の児童は年々増加している。教員・支援員への研修会やカウンセラーとの交流を行い、児童一人一人にあったケアをお願いする。

事業 No. 4　　適応指導教室

不登校の生徒が家に閉じこもる場合、その子をどうするのかが検討課題である。学校と連携し、情報収集に努めていただきたい。

事業 No. 5　　スクールカウンセラー（ＳＣ）

小学校にも定期的にＳＣを設けるべきである。長期的に同じＳＣを配属して欲しい。

事業 No. 6　　学校給食事業

将来を担う子ども達にとって食生活は心身の成長にかかせないものであり、食育に関心を持たれる保護者も沢山おられることと思う。昨今はインスタント食品が氾濫しており、味つけにも添加物等を多く含む食品が数多く見受けられる。現在の給食でもメニューを工夫していると思うが、自然食を豊かに取り入れた郷土料理や行事に関する伝統料理などについて地域の方々より情報提供していただき、学校給食に取り入れてはどうか。郷土や伝統料理について子ども達に伝達しながら食に関心を持たせる給食事業の展開を期待する。

事業 No. 7　　葛城歌壇短歌募集事業

入賞者に、賞状とともに記念品も授与できたのは、入賞者にとって大きな喜び、次への励みになったことと思う。

また、小・中学生の夏休みの宿題等により家庭でも子どもの感受性を発見できるものになっている。

葛城子ども歌壇への発展的解消については、様々な角度から十分な検討を加えて欲しい。事業の課題・問題点に対し再度対策を考えることも必要かと思われる。

事業 No. 9　　読書活動支援・講座

図書館事業の利用促進のうえで、広範囲に渡り多くの方々が有意義に利用されているが、特に夏休み期間中における図書館の利用については小中学生の読書感想文による貸し出し、また夏休みの宿題などによる専門図書の利用頻度が高まるものと考えられる。

事業 No. 11　成人式式典事業

新成人自らが成人式を企画・運営することが定着しつつあることは良いことである。毎回素晴らしい成果を上げることが出来ていると考える。何年かのち、新成人が懐かしく思い出し、「今を生きること」「葛城市」に誇りをもってくれることだろう。担当係には苦労もあるかと思われるが、可能な限りの情報提供や助言が行き届いているものと評価したい。ぜひとも継続して行うべき事業である。

事業 No. 12　生涯学習人材バンク事業

ボランティア活動として、豊かな知識と経験をお持ちの方々から多くの人材登録があるにも関わらず、派遣依頼が少ないというのは残念である。生花・ケーキ作り・茶道等、学校教育の中で指導のお手伝いをいただくことはできないか。学校と達人の交流の場を設ければ今後に繋がるのではないか。その他各分野での展開も必要と思われる。

また、達人の紹介に際してはもっと詳細な指導方法を併記するなど、方法を検討されたい。

事業 No. 13　青少年健全育成事業

子ども・若者たちが心豊かに育っていくためには、家庭はもちろんのこと、地域の取り組みが不可欠と考えられるが、現状では事業実績も昨年と同様であり、展開が見られない部分があると感じる。

近年の少子高齢化、情報化及び国際化の進展に伴い、青少年に関わる問題は急速に複雑・多様化している。有識者のご意見の中でも、青少年を取り巻く環境はめまぐるしく変化していくとあり、大きな社会問題でもあると実感する。市制十年を迎えた現在、本市においてもこのような社会の変化に応じて問題に取り組まなければならないが、本市生涯学習課では業務の一部として青少年問題を担当している。今後は青少年育成事業の課題に対応すべき意味も踏まえて、他市の青少年センターのように専門的な施設の設置が必要と考える。

事業 No. 14　学校・地域パートナーシップ事業

市の広報誌で活動の様子を紹介するなど、事業の周知に努めていただきたい。

事業 No. 16　子ども・若者育成支援事業

サポートルームの場所がわかりにくいように感じられるとともに、女性の相談員も必要ではないか。

今後、相談件数の増加が見込まれることから、他の期間等との連携を密に事業に取り組んでいただきたい。

事業 No. 20　文化振興事業

市民のニーズに合った事業計画の必要性がある。アンケートを全体像として捉えず、年齢層に合わせた公演を実施するように工夫していただきたい。

事業 No. 22　歴史講座開催事業

昨今、古事記や神話などが話題を呼んでいるが、歴史講座を高学年児童や中学生が参加できるように工夫してはどうか。住みなれた地域の歴史に関心を持つことをきっかけとして、奈良にまつわる歴史と文化に触れるなど、歴史の勉強にもつながることと思う。

事業 No. 23　埋蔵文化財等調査事業

長期的な視点から、職員を採用し育成する方針で進める必要があると考える。

（２）総評

主要事業に対する事務局の自己点検については、適正に評価されていると考える。

点検・評価に関わっていただいた有識者の方々には、卓越した見識と豊かな経験から貴重なご意見をいただいたことに感謝申し上げる。

いただいたご意見を無にすることなく積極的に取り入れ、市の将来を担う園児・児童・生徒が健やかに成長できるよう、また、市民の皆様が生活の中に和みや満足を感じることの出来るよう、より一層充実した事業の発展を期待する。

平成２６年９月１日

葛　城　市　教　育　委　員　会
委　員　長　　川　村　　泰　男